

事業概要

令和4年3月31日

施設種類	名称	所在地	定員
法人本部拠点			
法人本部	法人本部（本部事務局）	名古屋市昭和区川名本町 1-1	
光和寮拠点			
障害者支援施設 就労継続支援事業B 生活介護 施設入所支援	光和寮	名古屋市昭和区川名町 1-5 他 昭和区川名本町 1-1 他 昭和区川名本町 1-20 昭和区川名町 1-5	80 名 20 名 32 名
就労移行・定着支援事業	名古屋東ジョブトレーニングセンター	千種区仲田 1-10-17	20 名
福祉ホーム	かわな	昭和区川名本町 1-2	15 名
福祉ホーム	やすだ	昭和区川名町 1-5	11 名
地域活動支援センター	デイサービスセンタークリエイト川名	昭和区川名本町 1-20	19 名
同行援護等及び移動支援事業	ガイドネットあいさぽーと	昭和区川名本町 1-20	
相談支援事業	光和障害者相談センター	昭和区塩付通 4-15	
相談支援事業	りよくふう障害者相談センター	千種区日岡町 1-59-1	
就労継続支援事業 B	緑風	名古屋市千種区猫洞通 1-15	40 名
明和寮拠点			
障害福祉サービス事業 就労継続支援事業B 就労移行・定着支援事業 生活介護・共生型通所介護	明和寮（多機能型） ビーサポート 港ジョブトレーニングセンター ぷちとまと	名古屋市港区十一屋 1-70-5	100 名 14 名 12 名
福祉ホーム	あかり	〃	40 名
福祉ホーム	黎明荘	〃	8 名
同行援護等及び移動支援事業	みなとガイドネット	〃	
相談支援事業	明和障害者相談センター	〃	
障害者就業・生活支援センター	海部障害者就業・生活支援センター	津島市天王通 6-1 102 号	

施設種類	名称	所在地	定員
港ワークキャンパス拠点			
障害福祉サービス事業 就労継続支援事業A	港ワークキャンパス ライトハウス名古屋金属工場	名古屋市港区十一屋 1-70-4	60名
就労継続支援事業B	KAN 食品開発センター あおなみキャンパス かんせい工房	港区十一屋 1-57-8 港区寛政町 5-13	60名
福祉ホーム	みなと	港区十一屋 1-70-4	20名
戸田川グリーンヴィレッジ拠点			
障害者支援施設 生活介護 施設入所支援 短期入所	戸田川グリーンヴィレッジ	名古屋市中川区富永 1-16-1	40名 40名 8名
通所生活介護・共生型通所介護	木の香		10名
相談支援事業	戸田川障害者相談センター	〃	
熱田・港地域生活支援拠点			
障害福祉サービス事業 地域貢献事業 相談支援事業	日々の暮らし相談室 視覚総合相談室 ひびの障害者相談センター	名古屋市熱田区大宝 1-1-1	
基幹相談支援事業	港区障害者基幹相談支援センター	港区港栄 1-1-22	
地域活動支援センター	あちえっとほーむ	港区港楽 2-10-24	19名
放課後等デイサービス	わくわくキッズ	〃	10名
放課後等デイサービス	わくわくステップ	港区港栄 4-13-1	10名
情報文化センター拠点			
視覚障害者情報提供施設	情報文化センター	名古屋市港区港陽 1-1-65	
瀬古マザー園拠点			
介護老人福祉施設	瀬古第一マザー園	名古屋市守山区瀬古 2-301	60名
盲養護老人ホーム	瀬古第二マザー園	〃	50名
短期入所生活介護事業	瀬古マザー園短期入所生活介護事業所	〃	4名
老人デイサービスセンター	瀬古マザー園デイサービスセンター	〃	30名
〃・共生型生活介護	矢田マザー園デイサービスセンター	東区矢田 4-8-2	30名
居宅介護支援事業	瀬古マザー園居宅介護支援事業所	守山区瀬古 2-301	
公益事業	ふれあいセンター瀬古平成会館	〃	

令和3年度（2021年度） 事業報告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

I 法人本部

前々年度、前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症における予防対策に意を以て取り組んだ。入所型施設を多く抱える当法人は蔓延リスク、経営リスクが高いと言えるが、濃厚接触者、陽性者に対しガイドライン以上の対応を行い、その影響を極力小さくすることができた。

一方本体事業においては、3か年計画の初年度にあたり、障害福祉サービス・介護保険の報酬改定の影響がどのように反映されるか注視したところであるが、収益、収支差率ともアップすることができた。また、事業の活性化視点から事業統合する形での新たな生活介護事業の開設準備、利用者家族からの寄贈予定不動産の有効活用による共同生活援助（グループホーム）事業の開設準備などを進めた。

業務改善による組織強化の観点より、IT技術を活用した業務効率化の提案と研究を行う「DXチーム」の立ち上げ、給与システム等のオンライン化、ZoomやYouTube等を活用しての会議や研修会などを積極的に導入した。部長会ワーキングチームでは、役職制度の再検討、コミュニケーションの活性化、残業時間の適正化など働き方改革に取り組んだ。国の主導により対象となった事業所には新たな職員処遇改善も導入し、前年度取得した健康経営優良法人も引き続き認定されることとなった。

建物更新にかかわる法人の全体計画（マスタープラン）の作成ができなかった。西部施設（明和寮、港ワークキャンパス）のサービス提供のあり方検討委員会での議論を踏まえ、次年度のマスタープラン完成を目指す。

新卒採用活動では3名を採用、3法人の連携により進めているベトナム人材の採用はコロナ禍等の理由から次年度になる見込みである。人材育成面では、職員一人ひとりの想いや適正な人材配置のための情報収集として正職員を対象に働き方の意向確認を実施し、コミュニケーションの活性化に向け「個別ミーティング」の仕組みを導入した。

1 事業計画への報告事項

1. 事業の活性化

- ・第4期3か年計画の1年目として、各事業における数値目標を明確にし取り組んだ結果、全体収支としてサービス活動収益が前年度比109%とアップした。サービス活動費用も増額（前年度比107%）したが、収支差率は約3.5%と目標としていた3%に達した。本年度においてもコロナ感染予防対策として事業によっては活動自粛期間もあった中でも利用稼働率が維持できたことと本年度の報酬改定が

就労支援事業を中心にプラスに働いたことが要因である。

- ・就労事業（生産活動）においても法人内の就労継続事業が連携して営業活動を効率的に進めるなど、収入増（前年度比 109%、予算比 106%）となった。
- ・本年度前期に歩行訓練士養成事業に職員を派遣、10 月より視覚総合相談室に配属、訓練士 2 名体制とし支援の充実を図った。
- ・より充実したサービスと地域の福祉ニーズに応えるため、明和寮生活介護事業および戸田川グリーンヴィレッジ通所生活介護事業を合併し、港区東茶屋にて新たに通所生活介護事業を開設するべく整備委員会にて準備している。設計監理会社の選定、土地の取得が完了し、令和 5 年度上半期の開設を目指している。
- ・明和寮利用者のご家族より、土地建物（瑞穂区）の福祉事業目的の寄附提供のご提案をいただき、整備委員会にて検討、障害者総合支援法に基づく「共同生活援助」（グループホーム）として開設準備している。（令和 4 年 10 月開設予定）

2. 新型コロナ等感染予防対策の継続実施と事業継続計画（BCP）の策定

- ・感染症面は、本年度においても新型コロナ等の感染予防対策、定期的なスクリーニングの実施、迅速な情報共有など対策を講じ、感染と蔓延を防止することができたが、年度末の令和 4 年 1 月以降の第 6 波流行の影響で複数の施設で陽性者が発生し事業停止・自粛等の対応を取った。法人主導で BCP を策定し、緊急度の高い入所施設において完成した。
- ・防災面は外部コンサルタントと拠点からの代表委員で構成する「事業継続計画策定委員会」にて検討を進め、拠点ごとの「事業継続計画（BCP）」の策定を進め、一通り完成を果たすことができた。

3. 継続的な業務改善による組織の強化

- ・「プロジェクト DX（拠点より委員選出、IT 技術を活用した業務効率化の提案と研究を行う）チーム」を立ち上げ、メーリングリストによる情報交換・提案などを開始した。
- ・職員への給与明細を電子化した。年末調整オンライン化の試行や小口経費精算システムの導入の検討などプロセスの電子化検討を進めている。
- ・Zoom によるオンライン会議や YouTube 等を活用しての研修会や企画の動画配信など、社内会議を始め研修や外部への広報を積極的に行った。

4. 働き方改革と生産性の向上

- ・部長会ワーキングチーム（組織活性化、人事バランス、人件費見直し）での検討により、
 - スケールメリットを生かした消耗品購入等のコスト削減、
 - 役職定年制度、役職更新制度、65 歳以上の給与制度の検討、創設
 - 職員間コミュニケーション活性化のための個別ミーティングの実施
 - 残業時間削減をめざした「定時で帰ろうキャンペーン」などを取り組み、継続検討している。

- ・令和4年2月より、福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金、介護職員処遇改善支援補助金を申請、特別手当により賃金改善を実施した。
- ・健康経営優良法人2022版を2021版に引き続き申請、認定され次年度も継続することができることとなった。

5. 老朽化した建物・設備の計画的な更新

- ・「名古屋ライトハウス建物更新計画策定委員会」による建物更新にかかわる法人の全体計画（マスタープラン）の作成を令和3年9月としていたが、進捗が遅れ本年度の作成までには至らなかった。建物更新にあたっての事業の再編や住まいの場のサービスの在り方などの視点は当法人の長期的な運営方針ともなることから、西部施設（明和寮、港ワークキャンパス）の長期的なサービス提供のあり方検討委員会を設置、十分な議論と検討研究を進め、マスタープランの作成をする。
- ・光和寮デイ棟新築事業は、入札による建築請負業者が決定し着工、予定通りに進捗している。1期工事は令和4年6月完了、2期工事は令和5年度初頭に完了予定である。

6. 体系的な人材育成システムの構築

- ・新卒採用活動はオンラインを活用した会社説明会も取り入れ計画通り行った。当初目標とした人数には至っていないが各事業所の不足人材確保状況を踏まえ、3名の採用が決まり配属先を決定した。
- ・職員一人ひとりの育成につながるよう法人全体の研修体系構築に向け現状把握と情報収集を行い、中堅職員、主任、係長を対象とした体系的かつ継続的な研修体系を整備し、次年度より実施する。
- ・正職員を対象に異動等の意向確認を目的とした「自己チャレンジシート」を作成し実施した。今後も年1回実施する。
- ・部下と上司のコミュニケーションの活性化に向け1対1で会話ができる場「個別ミーティング」の仕組みを導入。定着に向け次年度も継続する。
- ・初めての試みとして入職2年目の職員を対象としたフォローアップ研修を八事山興正寺で開催した。食事作法、茶の湯、瞑想法等の体験を通して自分を見つめ、自己と向き合う機会とした。

7. 地域における公益的な取り組みの継続実施

- ・中間的就労の依頼実績はなく、サロン等についてもコロナ自粛により実施へ踏み出せていない。
- ・地域貢献部門統括会議でまとめる「地域共生レポート」を作成した。
- ・地域や関係者に向けて名古屋ライトハウスの活動を広報するツールとして、国連のSDGs（持続可能な開発目標）に沿った宣言を検討準備した。
- ・ウェブサイト上にて「アイのかけはし」を定期発信し、各拠点ウェブサイトの統合を進めた。

2 経営実施状況

(1) 諸会議

ア 評議員会の開催状況 (計4回)

開催年月日	議 題
定時評議員会 令和3年6月29日 (火) 午後1時43分 名古屋市中小企業振 興会館 第2会議室	第1号議案 役員の選任について 報告事項1 評議員の選任について 報告事項2 令和2年度事業報告・決算について 報告事項3 理事会審議事項の報告について 報告事項4 その他理事会報告事項
臨時評議員会 令和3年7月21日 (水) 【書面による決議】	第1号議案 基本財産の担保提供について
臨時評議員会 令和3年11月29日 (月) 午後1時44分 名古屋市中小企業振 興会館 第2会議室	第1号議案 令和3年度 第一次補正予算(案)について 第2号議案 基本財産の追加の担保提供について 報告事項1 令和3年度 上半期事業報告について 報告事項2 理事会審議事項の報告について 報告事項3 その他理事会報告事項
臨時評議員会 令和4年3月29日 (火) 午後1時45分 名古屋市中小企業振 興会館 第2会議室	第1号議案 令和3年度 第二次補正予算(案)について 第2号議案 令和4年度 事業計画(案)及び収支予算 (案)について 報告事項1 理事会審議事項等の報告について 報告事項2 新型コロナウイルスの対応について 報告事項3 光和寮デイ棟建替え進捗報告について 報告事項4 その他

イ 理事会の開催状況 (計8回)

【書面による決議】	
令和3年5月8日(土)	
議 案	第1号議案 評議員選任候補者の推薦について
令和3年6月11日(金) 午後1時45分 名古屋市中小企業振興会館 第2会議室	
議 案	第1号議案 令和2年度 事業報告・決算(案)について 第2号議案 令和3年度 会計監査人の報酬について 第3号議案 役員選任候補者について 第4号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第5号議案 諸規程の改定(案)について 第6号議案 光和寮デイ棟建替えについて

	第7号議案 定時評議員会の招集について (報告) 理事長等の職務執行状況、理事長の専決事項、新評議員選任、新型コロナウイルスについてなど
主な意見等	3か年計画の目標進捗管理については、理事会の資料の中で継続的に確認ができるようにされたい
令和3年6月29日(火) 午後3時15分 名古屋市中小企業振興会館 第2会議室	
議案	第1号議案 理事長および専務理事、常務理事並びに会長の選定について 第2号議案 (仮称) 名古屋ライトハウス川名本町新棟建設工事一般競争入札の実施について
【書面による決議】 令和3年7月16日(金)	
議案	第1号議案 令和2年度決算(計算書類の訂正)について 第2号議案 光和寮デイ棟建替資金の借入と基本財産の担保提供について 第3号議案 評議員会の招集について
令和3年8月25日(水) 午後1時45分 名古屋ライトハウス 福祉ホーム かわな	
議案	第1号議案 光和寮デイ棟建替え 建築業者との契約締結について 第2号議案 光和寮デイ棟建替えにかかる福祉医療機構借入金について 第3号議案 諸規程の改定について (報告) 新型コロナ感染対策、新規事業検討状況
主な意見等	入札結果について施工管理の徹底を 内部管理体制の基本方針の記載内容の精査 賞与の支給にかかる基準について明確にすること
令和3年11月18日(木) 午後1時45分 名古屋市中小企業振興会館 第2会議室	
議案	第1号議案 令和3年度 第一次補正予算(案)について 第2号議案 諸規程の改定について 第3号議案 「(仮称) グラン木の香」について 第4号議案 「(仮称) こちら田辺通GH」について 第5号議案 評議員会の招集について 第6号議案 基本財産の追加の担保提供について (報告) 令和3年度上半期事業報告・中間決算について、理事長等の職務執行状況、理事長専決事項、期中監事監査報告など
主な意見等	文書の廃棄にかかる期限の設定を検討のこと 新規事業の計画内容の精査を行うこと

令和4年1月25日(火)午後1時45分 名古屋ライトハウス 福祉ホーム かわな	
議案	第1号議案 設計監理業者の選定について 第2号議案 「(仮称) グラン木の香」事業計画・資金計画について 第3号議案 諸規程の改定について (報告) 期中監事監査報告など
主な意見等	虐待防止規程の内容について精査を行い再提案すること 感染症対策のBCP策定について検討すること
令和3年3月17日(木)午後1時45分 名古屋市中小企業振興会館 第2会議室	
議案	第1号議案 令和3年度 第二次補正予算(案)について 第2号議案 令和4年度 事業計画(案)・当初予算(案)・令和4年度資産運用方針(案)について 第3号議案 施設長等の任免および継続雇用にかかる更新について 第4号議案 諸規程の制定および改定について 第5号議案 役員賠償責任保険の更新について 第6号議案 評議員会の招集について 第7号議案 明和寮 自動油圧裁断機の購入について (報告) 新型コロナウイルス対応、理事会懸案事項経過報告、光和寮デイ棟建替え進捗報告など
主な意見等	補正予算には科目ごとにその補正の事由の記載を徹底のことで建物更新計画が完成しないまま積立金の取崩しが起きている

ウ 評議員選任・解任委員会の開催状況(計1回)

開催年月日	議 題
令和3年5月17日	第1号議案 評議員の選任について

エ 法人運営委員会の開催状況(計24回)

開催年月日	議 題
令和3年4月2日(金)	新型コロナ報告 期末決算業務 他
令和3年4月20日(火)	新型コロナ報告 期末決算業務進捗報告 他
令和3年5月10日(月)	新型コロナ報告 6月人事 他
令和3年5月19日(月)	新型コロナ報告 監事監査・会計監査 他
令和3年6月4日(金)	新型コロナ報告 理事会 夏季賞与 他
令和3年6月21日(月)	新型コロナ報告 定時評議員会 ベトナム人材 他
令和3年7月6日(火)	グラン木の香 デイ棟建設工事 新型コロナ報告 決算の修正 他

令和3年7月20日(火)	新型コロナ報告 デイ棟入札 理事会(8/25) 月報 他
令和3年8月5日(木)	新型コロナ報告 理事会(8/25) グラン木の香 他
令和3年8月23日(月)	新型コロナ報告 理事会(8/25) 入札結果分析 月報 ぷち木の香 田辺通GH 他
令和3年9月6日(月)	新型コロナ報告 補正予算 給与支給変更 光和寮デ イ棟建替 代筆代読支援事業 その他
令和3年9月21日(火)	新型コロナ報告 10月人事 福利厚生 BCP 策定 月報 他
令和3年10月4日(月)	新型コロナ報告 慰霊祭 給与支給変更 監事監査 他
令和3年10月19日(火)	新型コロナ報告 半期実績 理事会(11/18) グラン 木の香 SDGs その他
令和3年11月5日(金)	新型コロナ報告 理事会(11/18) 冬季賞与 年末表 彰 他
令和3年11月22日(月)	新型コロナ報告 評議員会(11/29) 年末年始の動き 他
令和3年12月6日(月)	新型コロナ報告 グラン木の香 田辺通GH 年末年 始の動き 虐待防止体制 他
令和3年12月21日(火)	新型コロナ報告 月報 キャリアパス改定 年末年始 の動き 理事会(1/25) 建物更新計画 他
令和4年1月6日(木)	新型コロナ報告 次年度事業計画 理事会(1/25) 他
令和4年1月21日(金)	新型コロナ報告 月報 理事会(1/25) 監事監査報告 ベトナム人材 年度末スケジュール 他
令和4年2月7日(月)	新型コロナ報告 内部監査 事業計画基本方針 新規 事業 他
令和4年2月21日(月)	新型コロナ報告 月報 理事会(3/17) 昇進・昇格 他
令和4年3月7日(月)	新型コロナ報告 理事会(3/17) マザー園体制 グラ ン木の香 カタリスト(株) 他
令和4年3月18日(金)	新型コロナ報告 新卒採用状況 月報 新規事業進捗 カタリスト(株) 他

オ 施設長会議の開催状況 (計12回)

開催年月日	主 な 議 題
令和3年4月21日(水)	定例報告、5月監事監査・新型コロナ対策
令和3年5月24日(月)	定例報告、令和3年度処遇改善加算にかかる特別手当、 新型コロナ対策、健康経営優良法人ロゴマーク、6月理 事会・評議員会
令和3年6月23日(水)	定例報告、名古屋市地域生活支援拠点の設置、6/29 評

	議員会・理事会、7/9 賞与支給、ネット回線の見直し
令和3年7月26日(月)	定例報告、新型コロナ対応、8/25 理事会
令和3年8月24日(火)	定例報告、8/25 理事会、3 法人ベトナムプロジェクト報告
令和3年9月22日(水)	定例報告、令和3年度上半期事業報告・中間決算・補正予算、給与支給方法の変更、職員資産形成支援
令和3年10月21日(木)	定例報告、内部監査の計画、年末調整依頼
令和3年11月24日(水)	定例報告、SDGs
令和3年12月23日(木)	定例報告、諸規程の改定、SDGs、年末年始、1/25 理事会
令和4年1月24日(月)	定例報告、新型コロナ対応、年度末スケジュール
令和4年2月28日(月)	定例報告
令和4年3月22日(火)	定例報告、諸規程改定、3/29 評議員会、4/1 辞令交付式

(2) 登記事項

法人	令和2年度期末資産変更登記	令和3年7月14日登記
法人	役員重任登記	令和3年7月14日登記
法人	土地取得 所有権移転登記	令和4年1月28日登記

(3) その他

① 国兼基金事業

物故者慰霊祭(八事霊園) 令和3年10月16日
新型コロナウイルスのため少数の法人関係者のみで執り行う

② 補正予算

・第一次補正予算

令和3年11月18日 理事会同意・11月29日 評議員会承認

・第二次補正予算

令和4年3月17日 理事会同意・3月29日 評議員会承認

③ 職員研修

- ・新卒者研修 令和3年4月9日、16日、23日、5月14日、21日 参加6名
- ・新卒者研修フォローアップ 令和3年10月22日 参加6名
- ・法人基礎研修 令和3年4月5・6日 参加11名
- ・法人フォローアップ研修 令和3年7月16日・8月20日 参加22名
- ・職員全体研修 令和3年11月6日 (Zoom)

(4) 『愛盲報恩会』

助成事業として、11 団体・2 特別事業等に総額 1,430,000 円の助成を行った。
また、第 16 回近藤正秋賞・片岡好亀賞・地域活動特別賞の受賞者を選定し、新型

コロナの感染状況に鑑み、令和4年2月19日に贈呈式および記念スピーチの開催をオンライン形式で実施した。記念スピーチには前年は中止となった第15回の受賞者にもご参加いただき、それぞれからお話を頂くことができた。スピーチはアーカイブすることで、当日参加できなかった職員等が、後から視聴できるようにできたのもオンライン開催の恩恵となった。

<第16回表彰者>

近藤正秋賞 田中 章治 様 (全日本視覚障害者協議会 副代表理事)
片岡好亀賞 藤井 亮輔 様 (一枝のゆめ財団 専務理事)
地域活動特別賞 溝口 久義 様 (名古屋市視覚障害者協会 厚生部長)

(5) 地域交流行事

4月25日 明和寮・港ワークキャンパスほか ライトハウス福祉まつり→中止
7月23日 情報文化センター 地域交流イベント→中止
9月 緑風 (東部地域療育センターぽけっととの共催) 緑ぽけまつり→中止
9月27日 戸田川グリーンヴィレッジ 秋祭り→施設入所者と職員のみで実施
11月8日 瀬古マザー園 なかよしフェスティバル→中止
11月14日 光和寮 地域交流フェスティバル→中止

3 助成・寄付に関する特記事項 (順不同)

(1) 助成に関する特記事項 (金額は助成額)

愛知県共同募金会	－	情報文化センター	
		ボランティア研修事業助成金	600,000 円
愛知県共同募金会	－	一般配分金	126,000 円
愛知県共同募金会	－	情文 点字ラインプリンター	3,000,000 円
中央競馬馬主社会福祉財団	－	港ワーク 送迎用ハイエース	2,100,000 円

(2) 寄付に関する特記事項 (10万円以上の寄附者)

坂文種報徳会 様	500,000 円	(法人本部)
匿名役員	200,000 円	(法人本部)
岡田 浩志 様	2,000,000 円	(法人本部)
日産化学(株) 様	280,400 円	(明和寮)
(株)山内コーポレーション 様	100,000 円	(光和寮)
(株)メディアボックス 様	656,000 円	(光和寮)
東邦インターナショナル(株) 様	100,000 円	(法人本部)
ほか 55 件	619,950 円	

合計 4,456,350 円

4 新型コロナウイルス感染症

対策2年目となる当年度は、当初4月に複数の通所事業にて陽性者が出たため、一時的な事業停止や検査対応に追われた。この時に濃厚接触者となった利用者の中には入所施設の利用者もあり、健康観察時の過ごし方など対応に工夫を重ねながら万が一に備えた。この時の事案では施設内での感染事例となることはなく済んだものの、翌年1月以降、世間でも新規陽性者が急激に増加した際は、多くの通所事業で散発的に陽性者が発生し、その中には事業所内での感染が疑われるケースも起きた。またその影響で、入所施設の利用者にまで感染者が及んだ。

1年目とは異なり、事業実績もコロナ前水準と比しても伸びてきたことから、助成金等の公的な支援については、「陽性者が出た場合」について支給されるものを中心となり、就労支援などもそれらの手当は無くなった。

(1) 利用者、就労支援事業

特に入所利用者には感染が拡がらないように細心の注意を払う意味でも、通所利用者、職員やその同居家族からの感染状況には敏感に対応し、利用をご遠慮いただいたり、出勤を停止していただいたりしながら対応しつつ、様々な状況に対して、施設としてどう対応し、何日間様子を見るか、など新しい情報も確認しながら、法人内で連携しながら整理・遂行した。

就労支援事業は、利用者同士の密を減らすように作業場や食堂などを分散化を徹底しながら事業を進めてきた。長期で休業することもなく、取引先に迷惑をかけることなく事業が遂行できた。

当年度も外部を巻き込んで実施するお祭りなどの行事はほとんどを中止としたが、利用者の余暇活動は、世間の感染者の少ない時期を狙って少人数で短時間でなどの対策をして進めた。

(2) 職員

年間を通して、地域の学校や保育園等が新型コロナにより休校となったり、同居家族に由来して濃厚接触者等となったりする事例が相次いだ。法人の水際対策として特別休暇を手当することにより職員自身に感染の恐れがないことをしっかり確かめてから出勤ができるように配慮した。ただ、職場は一時的に職員不足に陥るなど部署の相互応援で賄う様子も見られた。

職員の研修参加は、オンライン形式の開催が増えてきたこともあり、その機会はかなり増加した。内部研修も対面ならびにオンラインも活用しながら、計画通りに進めることができた。

ア 新型コロナにかかる補助金・助成金の一覧（単位：円）

両立支援助成金 (休校対応)	新型コロナ検査助成	新型コロナ包括支援 (かかり増し経費)	小計
1,415,871	389,000	204,000	2,008,871

※ほかに、衛生部材としてマスク・消毒液・抗原検査キットなどが名古屋市より事業所に配布された。

(3) 感染防止対策

① ワクチン接種について

法人としてワクチン接種を推奨する方針を打ち出し、職員向けには、自身の接種だけでなく同居家族の付き添い、また副反応についても勤務免除をすることとした。令和3年5月から瀬古マザー園を皮切りに施設接種がスタートし、他の施設も続いた。嘱託医や外部の医療機関と連携し、8月20日までには2回目の施設接種を完了したが、施設接種として同時に接種を受けたがために、副反応による体調不良者の欠勤も同時に起き、シフト制で勤務する事業所には施設での一斉接種は不向きと感じた。

翌年1月末からは、3回目の接種も開始し、利用者および職員が2月中に接種を完了した。ちょうど新規陽性者が急増していた時期と重なったことにより、多くが接種を実施した。

名古屋市からの要請により、情報文化センター内に視覚障害者向けにワクチン接種予約を支援するコールセンターを設置した。1~2回目接種向けに7月、並びに3回目接種向けに12月~翌年4月において稼働した。

② 検査体制について

保健センターの指示により濃厚接触者は検査を受けられるものの、その対応が遅かったり、施設での接触は「追わない」ケースもあり、法人でPCR検査・抗原検査キットを配備して検査をできるように体制を整えた。また、名古屋市から主に入所施設とその関連施設の職員向けに、年間を通して定期的にPCR検査を実施する「スクリーニング検査」が行われ、各事業所でそれを申請し実施した。大多数が陰性の結果であったが、その検査によって陽性が発覚した職員も数名いた。

Ⅱ 光和寮 拠点

障害者支援施設	『光和寮』
就労継続支援事業 B 型	
生活介護事業	
施設入所支援	
就労移行支援事業・就労定着支援事業	『名古屋東ジョブトレーニングセンター』
福祉ホーム	『かわな』『やすだ』
同行援護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぼーと』
地域活動支援事業	『デイサービスセンター クリエイト川名』
相談支援事業	『光和障害者相談センター』 『りよくふう障害者相談センター』

令和 3 年 10 月から光和寮デイサービス棟の建替え工事を開始、一期工事は令和 4 年 6 月、二期工事は令和 5 年 5 月の完了を目指している。建替え後に機能強化や効率化が果たせるよう、相談支援二事業の移転統合、生活介護事業と地域活動支援事業の再編、グループホーム事業の開始など、各事業の在り方について検討を進めた。また多機能事業だった就労移行支援事業の単独化を 9 月に実施。事業の専門性を高め、報酬単価のアップと効率化を果たした。

<拠点重点項目>

(1) 事業の活性化

- ・目的であった部門ごとの管理強化を順次進めた。次年度には事業所長制として責任の範囲の明確化と臨機応変な活動による更なる事業の活性化を図る。
- ・デイサービス棟の建替え工事は若干遅れが出たものの計画に沿って順調に進捗している。一期・二期工事と段階的に有効活用できるよう内部配置など詳細を詰めている。
- ・利用稼働率については、コロナ禍によるデイサービス部門での利用控え、日中活動の場での陽性者発生による一時休業などがあったものの、一部を除き活発な広報活動により利用稼働率は維持向上。拠点全体としては堅調に推移した。

(2) 感染予防対策の継続実施と事業継続計画 (BCP) の作成

- ・感染症対策では、情報発信や意識啓発、名古屋市 PCR スクリーニング検査への参画、早期のワクチン接種に取り組んだ。緑風や光和寮の各部署で陽性者があり一部休業が発生したものの、拠点内で感染拡大はなく事業運営できた。
- ・感染者発生時の手順書や備品、応援体制の確認などを行った。
- ・防災面では、拠点レベルの BCP は法人 BCP プロジェクトに沿って策定を進め、第一段階の完成にたどり着いた。また、非常時の安否確認手段として SMS を活用したシステムの導入を開始し、各部署でのデモ、説明会を行った。

1 障害者支援施設 『光和寮』

(1) 就労継続支援事業 B 型

- 既存の顧客の受注拡大、新規顧客の開拓により、売上予算比 109%を達成。
- 職員間の情報共有を密にした細やかな支援で平均利用稼働率が 4.9%アップ。

- ・治療部は営業時間を従前に戻せるよう検討したが、コロナ禍や人員配置の影響もあり 17 時営業終了の時短営業を継続することとなった。また、感染予防対策を強化し、安心して来店いただけるよう取り組んだが、キャッシュレス決済など顧客の利便性を向上する取組みは停滞した。
- ・印刷科では、既存顧客、並びに新規顧客からの見積依頼や引き合いが増加。継続した関係性の強化や、価格・作業体制の見直しにより、新規案件や大型案件を獲得、結果として就労売上の年間予算を大きく上回ることができた。新規顧客に関しては継続的にアプローチを行い、複数の案件の獲得につなげることができた。
- ・部品加工科では、収益率を上げるために作業内容の見直しを行った。新規取引先のダイレクトメール封入封緘作業は軌道に乗り、受注先企業より丁合機の寄贈を受け、作業の機械化による収益増があった。利用者支援においては、新卒利用者の受け入れもあり、慣れない環境で働く利用者の支援を生活支援と連携し休憩時間の見守りなど手厚く行った。また、コロナ禍による利用者のニーズを聞き入れ、通所から在宅支援への切り替えなど、社会情勢に合わせて柔軟に対応した。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R1 年度	52	22	74	R1 年度 平均		35,897
R2 年度	52	23	75	R2 年度 平均		32,921
R3 年度	56	24	80	R3 年度 平均		33,278
治療部	5	6	11	149,687	24,849	58,123
印刷科	4	4	8	110,944	21,889	53,012
部品加工科	47	14	61	61,687	11,608	23,897

※在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

治療部	年間の来院数 2,583 人 年間の新規来院数 64 名 1 顧客あたりの平均単価 3,624 円
印刷科	冊子：368,400 冊 封筒印刷：546,400 枚 録音速記：140 時間 名刺印刷：98,450 枚（内点字名刺：14,000 枚）
部品加工科	マーカー本体、先端部分の組付け、ペン加工作業：850,000 個 ギフトセット組み作業：10,000 セット イベントグッズ検品作業：240,000 個 ダイレクトメール封入封緘シール貼り作業：1,200,000 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R1 年度	5	7	78	80
R2 年度	9	9	78	
R3 年度	14	12	80	

(R3 年度退所者)：就労系施設 5 名、入所系施設 4 名、自宅 2 名、その他 1 名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	32	30	1	19	4	0	78(8)
R2 年度	31	28	1	19	7	0	78(8)
R3 年度	36	25	1	20	7	0	80(9)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	18	1	13	28	16	1	1	78
R2 年度	18	1	11	31	16	1	0	78
R3 年度	25	1	10	31	12	1	0	80

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	2	10	12	8	17	29	78	49.2 歳
R2 年度	0	8	14	11	21	24	78	49.8 歳
R3 年度	2	5	13	13	19	28	80	50.8 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
80	R1年度	253	17,520	69.2	86.5%
	R2年度	257	16,628	64.7	80.8%
	R3年度	257	17,681	68.7	85.9%

(2) 生活介護事業

- ・新型コロナの影響で稼働できない日もあり、延べ利用者数は前年度より減少。
- ・利用者確保に向けて学校や相談支援事業所への訪問と土曜営業日での体験・見学会を実施し、次年度6名の新規利用者を確保することができた。
- ・新棟完成後は入浴サービスを実施するため、入浴機器の見学・体験や法人内の他施設の入浴設備の見学を行った。また、入浴介助の研修を行い次年度に向けての準備を進めた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	2	4	27	20
R2年度	3	3	27	
R3年度	5	4	28	

(R3年度退所者)：死亡1名、施設入所1名、他施設利用1名、その他1名

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1年度	9	7	6	12	3	0	27(10)
R2年度	10	9	4	15	2	0	27(13)
R3年度	12	9	2	16	3	0	28(14)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	1	0	1	5	8	3	9	27
R2年度	1	0	1	4	7	4	10	27
R3年度	0	0	1	4	10	4	9	28

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	0	10	0	6	4	7	27	43.2歳
R2年度	1	10	0	5	4	7	27	43.8歳
R3年度	0	10	3	5	4	6	28	43.8歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	R1年度	240	4,019	16.7	83.7%
	R2年度	250	3,431	13.7	68.6%
	R3年度	244	3,409	13.9	69.8%

カ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
活動補助	88名
音楽講師	42名
マッサージ	12名
健康体操	12名
笑いヨガ	8名

(3) 施設入所支援

- ・実効性のある防災計画と防災訓練を目指し、5, 7, 10, 2月に避難訓練を実施。10月にはより実践的な実施として、非常ベルを鳴らし防火扉を閉めて避難訓練を行った。2月の避難訓練前に防災会議を防火管理者と行い、10月の反省点を確認し、2月に全体訓練後防火扉が閉まった場合の動きを個別に実施した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	2	1	25	32
R2年度	3	3	25	
R3年度	6	5	26	

(R3年度退所者)：病院1名、自宅1名、民間アパート1名、福祉ホーム2名

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1年度	14	8	0	8	1	0	25(6)
R2年度	12	8	0	8	3	0	25(6)
R3年度	13	9	0	8	2	0	26(6)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	0	0	6	10	8	1	0	25
R2年度	0	0	3	12	9	1	0	25
R3年度	0	0	2	15	9	0	0	26

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	2	2	2	3	7	9	25	48.8歳
R2年度	1	2	3	3	10	6	25	48.4歳
R3年度	1	1	3	4	10	7	26	51.3歳

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
外出ボラ	1名

※コロナ禍のためほぼ活動できず

2 『名古屋東ジョブトレーニングセンター』

(1) 就労移行支援事業

- ・事業運営の安定化を図るため9月に多機能型から単独化を果たした。これまでも段階的な定員増や移転を行っているため、大過なく新たなスタートが切れた。
- ・支援スキル向上のため人材育成の仕組み化に取り組んだ。すぐに実績に結び付かない業務は熟練者がフォローする形で各実績を維持しつつ、職員の育成を図った。
- ・大学生の就職希望者や専門職を目指す方への支援が増えており、今後より多様な支援スキルが求められるため、継続課題として取り組んでいく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定員
R1年度	19	16	18	2	20
R2年度	23	13	28	10	
R3年度	14	19	23	3	

※B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
R1年度	10	1	0	5	16
R2年度	7	1	3	2	13
R3年度	12	1	1	5	19

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	2	1	0	15	3	0	18(3)
R2 年度	2	1	0	19	9	0	28(3)
R3 年度	1	0	0	15	8	0	23(1)

() 内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	11	0	3	3	0	1	0	18
R2 年度	25	0	2	1	0	0	0	28
R3 年度	21	0	0	1	1	0	0	23

オ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	8	4	2	3	1	0	18	25.9 歳
R2 年度	7	14	3	3	1	0	28	26.7 歳
R3 年度	3	16	3	1	0	0	23	24.6 歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	R1 年度	253	4,762	18.8	94.1%
	R2 年度	259	5,588	21.5	107.8%
	R3 年度	260	5,579	21.4	107.2%

(2) 就労定着支援事業

- ・コロナ禍によって対面支援の制限がある時期もあったが、状況に応じた相談支援が相互にできるようになってきた。集まるイベントは引き続き難しいが、1年の節目を労い合う1年を振り返る会は今回も対策や工夫を講じて実施した。

ア 登録および利用状況

	年度登録者	年度解除者	期末登録者	延べ利用実績数
R1年度	14	13	34	331
R2年度	8	9	33	378
R3年度	6	14	25	341

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1年度	3	1	1	26	5	0	34(2)
R2年度	2	0	1	27	5	0	33(2)
R3年度	3	1	1	17	6	0	25(3)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	21	1	5	5	2	0	0	34
R2年度	24	0	3	5	1	0	0	33
R3年度	22	0	1	1	1	0	0	25

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	2	24	4	4	0	0	34	24.5歳
R2年度	0	27	4	2	0	0	33	25.3歳
R3年度	0	20	4	0	1	0	25	25.8歳

3 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

(1) 『かわな』

- ・新規入居が2名増えて利用稼働率は向上した。入居者向けに、公営住宅や民間アパート等の情報提供をこまめに行い地域移行の可能性を探ったが、具体的な進展には至らなかった。
- ・生活訓練については、直接支援するケースこそなかったが、ヘルパーさんとの調整を密に取り、訓練要素を取り入れられる環境作りに努めた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	2	1	12	15
R2年度	0	0	12	
R3年度	2	0	14	
(R3年度退所者)：なし				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	6	6	0	1	0	0	12(1)
R2 年度	6	6	0	1	0	0	12(1)
R3 年度	8	6	0	1	0	0	14(1)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	3	0	2	6	1	0	0	12
R2 年度	3	0	3	6	1	0	0	12
R3 年度	2	0	3	7	2	0	0	14

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	0	1	0	2	3	6	12	54.8 歳
R2 年度	0	1	0	2	3	6	12	55.8 歳
R3 年度	0	2	1	2	3	6	14	52.6 歳

(2) 『やすだ』

- ・地域移行、生活訓練とも希望者が無く、具体的な進展はなかった。高齢な利用者については適切な施設への移行手続きを進めるとともに、関係機関やサービス事業所との調整を支援した。また就労継続 B 型利用者で在宅での生活が困難になった方が新たに利用となった。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R1 年度	2	1	10	11
R2 年度	0	0	10	
R3 年度	1	3	8	
(R3 年度退所者) : 有料老人ホーム 2 名、 グループホーム 1 名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	1	9	0	0	0	0	10
R2 年度	1	9	0	0	0	0	10
R3 年度	1	7	0	0	0	0	8

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	5	0	1	3	1	0	0	10
R2年度	4	0	1	3	2	0	0	10
R3年度	2	0	1	4	1	0	0	8

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	0	1	1	2	2	4	10	51.0歳
R2年度	0	1	1	2	2	4	10	52.0歳
R3年度	0	0	2	2	2	2	8	49.4歳

4 同行援護・移動支援事業 『ガイドネットあいさぽーと』

- ・従来の活動ルールとしてきた「一日同一ヘルパー1活動」を見直して複数活動を可能にしたため、延べ活動時間が500時間を超える月もあり、コロナ禍にもかかわらず過去最高の活動実績となった。ヘルパーのスキルアップについては、前期に車いす対応研修、後期に支援の在り方や考え方についての勉強会を行った。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1年度	51	0	1	5	0	0	52(5)
R2年度	53	0	2	5	0	0	54(6)
R3年度	56	4	0	4	0	3	57(10)

() 内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	4	2	10	25	9	2	0	52
R2年度	2	2	10	25	11	4	0	54
R3年度	3	3	10	23	14	4	0	57

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	1	2	2	4	7	36	52	68.2歳
R2年度	1	1	3	4	6	39	54	69.9歳
R3年度	2	3	1	4	8	39	57	66.6歳

エ 活動実績時間数

	R1 年度	R2 年度	R3 年度
移動支援（月平均）	2.4 時間	10.5 時間	8.5 時間
同行援護（月平均）	318.5 時間	263.7 時間	409 時間

5 地域活動支援事業 『デイサービスセンター クリエイト川名』

- ・コロナ禍による外出控えや、まん延防止等重点措置の影響を受けた欠席者の増加などにより利用稼働率は延びず、前年度を下回る結果となったが、利用稼働率アップに向けて充実した活動が展開できるよう、新たな活動の創設に取り組んだ。
- ・生活介護への事業移行については対象利用者に介護保険サービスについて利用状況の聴き取りを行った。今後、段階的に準備を進める。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R1 年度	0	2	58	19
R2 年度	2	6	54	
R3 年度	2	1	55	
(R3 年度退所者)：健康状態悪化による 1 名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	58	1	1	1	0	0	58(3)
R2 年度	54	1	1	1	0	0	54(3)
R3 年度	55	1	1	1	1	0	55(4)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	0	2	1	3	2	50	58	69.3 歳
R2 年度	0	1	1	2	3	47	54	69.9 歳
R3 年度	0	1	1	2	4	47	55	70.2 歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
19	R1 年度	244	3,762	15.4	81.1%
	R2 年度	247	3,142	12.7	67.0%
	R3 年度	242	3,076	12.7	66.8%

オ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
活動補助	304名
陶芸	130名
体操講師	22名

6 相談支援事業

『光和障害者相談センター』・『りよくふう障害者相談センター』

(1) 光和障害者相談センター

- ・コロナ禍による利用者・事業所への影響が各所で生じ、連絡調整に時間を要した。地域移行においても利用者側、病院側ともに慎重となり2件の実績にとどまった。
- ・運営の適正化においては、実施地域外の利用者について他事業所への移行を推進。困難ケースの対応策としてサブ担当を置く基準を設けたので、次年度から運用を図る。
- ・スキルアップや連携強化を図るため勉強会を実施。拠点全体にも発信し広く参加できるように努めた。
- ・りよくふう相談との2事業所体制の在り方は方向性を定めたので、次年度は具体策を練る。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
R1年度	445	762	346	15
R2年度	408	869	367	12
R3年度	414	918	398	16

(2) りよくふう障害者相談センター

- ・職員配置が3人から2人になったため、地域事業所への移行を進め、担当数の適正化を図った。現在は職員1人当たり約80名の担当を持っている。
- ・地域移行支援は、契約者3人うち1人がコロナ禍で病院から外出許可が下りず移行に至らなかったものの、2人は丁寧な支援が功を奏して地域移行を果たした。
- ・地域においては千種区、昭和区の相談部会に参加したほか、千種区の自立支援連絡協議会、東ブロック会にも参加して他事業所との情報交換や連携に努めた。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
R1年度	233	388	274	14
R2年度	249	574	242	15
R3年度	210	404	153	9

II-2 緑風

1 就労継続支援事業B型 『緑風』

- ・新年度は新卒2名が利用を開始。関係機関へのアプローチを継続的に行い、登録利用者を7名増の58名まで伸ばすことができた。
- ・利用者数は、延べ9,815名、一日平均38.9名、利用稼働率97.3%と前年度に比べて僅かに減ったが、コロナ陽性者の発生による休業や利用控えもあったなか、丁寧な支援によって信頼関係が強まり、減少幅を最小限に抑えることができた。
- ・就労支援面に関しては、利用者の障害特性に合った作業提供を行うことに注力しつつ、新規取引先獲得による売上アップを目標に進めてきた。また、取引先との連絡を密に取って情報把握に努めることで、閑散期に新規作業の受注で売上を確保することができ、累計売上8,458千円、予算達成率111.74%と好成績を収めた。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R1年度	41	10	51	33,890	4,713	11,001
R2年度	41	10	51	32,838	4,170	10,084
R3年度	43	15	58	28,511	4,099	10,193

※在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

軽作業	下請け作業としての年間生産数 くまで組立：14,000本・ほうき組立：30,000個 （その他清掃用品11種類の組付、加工、袋入れ） DMチラシ：2,300,000枚、シーラー加工：13,291個 ゼリー：シール貼り187,342個、印字108,005個など 施設外作業（清掃業務）年間222日
-----	--

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	10	4	51	40
R2年度	7	7	51	
R3年度	10	3	58	
(R3年度退所者)：就労継続支援A型へ移行3名				

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	2	13	1	32	14	0	51(11)
R2 年度	2	16	1	28	11	0	51(7)
R3 年度	4	17	1	33	11	0	58(8)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	19	1	4	12	15	0	0	51
R2 年度	15	1	3	13	13	4	2	51
R3 年度	19	1	6	11	14	5	2	58

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	1	15	6	12	12	5	51	41.9 歳
R2 年度	3	14	6	11	11	6	51	40.8 歳
R3 年度	2	17	7	9	15	8	58	41.5 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	R1 年度	266	9,838	37.0	92.5%
	R2 年度	257	10,208	39.7	99.3%
	R3 年度	252	9,815	38.9	97.3%

ク ボランティア活動状況

※コロナウイルス感染防止のため令和 3 年度受け入れ中止

Ⅲ 明和寮 拠点

障害福祉サービス事業	『明和寮』（多機能型）
就労継続支援事業B型	ビーサポート
生活介護事業 （共生型 地域密着型 通所介護）	ぷちとまと
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター
就労定着支援事業	『明和定着支援事業』
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』
同行援護・重度訪問介護等事業	『みなとガイドネット』
相談支援事業	『明和障害者相談センター』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』

本年度も新型コロナの影響を受けながらの一年となったが、状況に合わせた対応を行うことで内部で感染を拡大することなく事業を継続して行うことができた。

ビーサポートでは一部コロナによる取引アイテムの中止等もあったが積極的な営業活動を行なうことでマスク・手袋の仕分け発送業務を年間を通して受注する等、順調に売り上げを伸ばすことができた。

みなとガイドネットについては外出等が制限される期間が長かったことから事業への影響が出てしまったが、福祉ホームでは「巣ごもり快適計画」により利用者の生活向上に取り組み、各事業においては Zoom 等の活用により「オンライン見学会」や「オンライン研修」、「在宅訓練」等、時代に合わせた新しい活動に取り組むことができた。

<拠点重点項目>

（１）事業の活性化

- ・利用者の多様な働き方を実現するため、これまでビーサポートになかったマイペースで働ける場、作業訓練の場としての組立加工Ⅱ科を創設したが、当初は感染予防を優先する中でイメージしていた活動を進めることができなかつた。年度後半より利用者の意向を聞きながらニーズに合わせた働き方の提供が少しずつできるようになってきたため、次年度も継続し、更なる事業体制の構築を進める。
- ・港ジョブトレーニングセンターの特化型訓練については調理と清掃についてプログラム化を行ない、就職実績に結びつけることができた。
- ・ぷちとまと移転後の生産活動型生活介護については、納期を気にせず、楽しく作業に参加できるイメージで「薪事業」や「自主製品（惣菜・餃子）」を主作業とし、具体的な検討に入ることができた。

（２）感染予防対策の継続実施と事業継続計画（BCP）の作成

- ・感染症対策では、上半期は事業間における職員の接触制限や通所と福祉ホーム利

用者を分離することで感染拡大リスクを低減する対策を講じた。拠点内で少数の陽性者が発生したものの、迅速な対応に努め二次感染に至ることなく事業を運営することができた。

- ・防災面についてはBCP策定委員を選出し、コンサルタントと協働して主体的にBCP策定を推進し、第一段階が完成した。また地域あんしんシェルターの見学会や夜間を意識した福祉ホーム利用者・宿日直者向けの防災会議ならびに防災訓練を実施した。

1 障害福祉サービス事業 『明和寮』（多機能型）

（1）就労継続支援事業B型 「ビーサポート」

- ・印刷科は業界全体が年々厳しくなる中、年間を通してマスク・手袋の仕分け発送業務を受注することで予算達成への後押しとなった。また、包装加工科は品質の安定と異物混入等のリスクを軽減する改善活動を進め、工業分野で使用される部品トレーを安定して受注することができた。その結果、印刷事業では前年度の売上げに対して5%、包装加工事業では24%の増加につながった
- ・施設外就労や新規事業創出の取り組みについては、コロナ禍の影響が大きく引き続き次年度も体制作りから検討をすることとなった。
- ・利用者確保については、学校への出張実習、Zoomによるオンライン見学、ハローワークへの営業を積極的に行った結果、17名の利用者を受け入れることができた。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃（年間総支給額÷12）(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R1年度	73	29	102	令和元年度 平均		46,849
R2年度	78	28	106	令和2年度 平均		47,799
R3年度	83	27	110	令和3年度 平均		48,383
印刷事業	7	3	10	113,804	12,345	52,700
組立加工事業	63	18	81	102,052	10,080	37,170
包装加工事業	13	6	19	108,614	26,496	46,017

※在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

印刷科	冊子 825,419部 チラシ 33,861,859枚 封筒 1,492,524枚 名刺 4,528枚 帳票 1,358,966部 はがき類 16,946枚 その他 379,670部 封入・封緘 94,736セット (付随事業) 自販機設置協力事業所 29社 設置台数 44台
組立加工科	タンク並べ 11,294,448個 ライト検品・梱包 15,043個

組立加工科	ガス給湯器内ヒータのバネ付け作業 428,806 セット バインダー組付け 3,080,967 個 ピロー包装 660,700 個 シーラー作業 14,000 個
包装加工科	プラスチック真空成型加工 真空成型加工及びスライドブリスター（折り曲げ）加工 スライドブリスター（折り曲げ）加工 合計 5,556,057 個

ウ 入退所

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R1 年度	6	11	102	100
R2 年度	9	5	106	
R3 年度	17	13	110	

(R3 年度退所者)：一般就労 1 名、他事業所移行 2 名、介護老人保健施設 4 名、有料老人ホーム 1 名、自宅 3 名、入院 1 名、死亡 1 名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	23	47	0	36	13	0	102(17)
R2 年度	25	47	0	36	13	0	106(15)
R3 年度	25	49	0	37	12	0	110(13)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	38	0	12	33	15	3	1	102
R2 年度	38	1	10	32	21	4	0	106
R3 年度	40	0	12	30	26	2	0	110

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	3	17	8	16	29	29	102	48.8 歳
R2 年度	0	20	8	16	29	33	106	49.8 歳
R3 年度	6	19	7	17	30	31	110	48.0 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
100	R1年度	261	23,220	89.0	89.0%
	R2年度	259	22,561	87.2	87.2%
	R3年度	257	23,539	91.6	91.6%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
行事協力	0	コロナウイルスのため行事中止
頭髪カット	4	ビューティーかわむら 4/12、7/12、10/11、12/20
クラブ活動支援	0	コロナウイルスのため活動中止

(2) 生活介護事業（共生型 地域密着型通所介護） 「ぷちとまと」

- ・港特別支援学校から新規利用者2名を受け入れた他、既存利用者の利用パターンを分析し、利用可能曜日を周知することや土曜日開所を増やすことで利用稼働率向上を果たせた。
- ・戸田川グリーンヴィレッジ木の香と協同し、開設整備委員会を適宜開催することで、令和5年度上半期の移転・開設に向けた活動を進めた。また、コロナの影響で中断となったが相互研修としてぷちとまと職員1名が木の香にて1ヵ月の実習を行なった。
- ・生産活動型生活介護事業の検討については薪事業や自主製品（惣菜・餃子等）について事業化の検討を進めた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R1年度	1	4	25	12※
R2年度	1	2	24	
R3年度	2	1	25	
(R3年度退所者)：入院1名				

※生活介護事業・共生型地域密着型通所介護事業で合計した定員数

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1年度	3	18	0	15	0	0	25(11)
R2年度	3	17	0	14	0	0	24(10)
R3年度	3	19	0	16	0	0	25(12)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	0	0	1	2	3	6	13	25
R2年度	1	0	1	1	3	6	12	24
R3年度	1	0	1	1	3	5	14	25

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	0	6	7	5	5	2	25	38.0歳
R2年度	0	6	6	5	5	2	24	41.0歳
R3年度	2	6	6	5	4	2	25	34.0歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
12	R1年度	238	2,740	11.5	95.9%
	R2年度	245	2,514	10.3	85.5%
	R3年度	248	2,898	11.8	98.3%

(3) 就労移行支援事業 「港ジョブトレーニングセンター」

- ・施設内で実践訓練ができる強みを生かし、調理・清掃の特化型訓練をプログラム化し、本年度の就職者7名のうち調理補助1名、清掃業務3名の就職実績を上げることができた。
- ・コロナ禍のため他部署との分離分割が優先され、Meiwa マルシェやジョブカフェを再開することはできなかった。
- ・在宅訓練については研修等にも参加し、ZOOMでの訓練を試行的に実施するまでとなり、運用できる訓練内容を更に検討する。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定員
R1年度	12	10	12	8	14
R2年度	12	8	16	14	
R3年度	8	12	12	11	

※B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
R1 年度	5	0	2	3	10
R2 年度	4	1	1	2	8
R3 年度	8	0	3	1	12

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	0	1	0	10	2	0	12(1)
R2 年度	0	1	0	9	6	0	16
R3 年度	0	0	0	7	5	0	12

() 内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1 年度	11	0	0	1	0	0	0	12
R2 年度	9	0	4	2	1	0	0	16
R3 年度	7	0	1	3	1	0	0	12

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1 年度	9	3	0	0	0	0	12	19.5 歳
R2 年度	5	7	2	1	1	0	16	25.1 歳
R3 年度	3	5	0	3	1	0	12	29.9 歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
14	R1 年度	255	3,942	15.5	110.4%
	R2 年度	256	3,087	12.1	86.1%
	R3 年度	250	3,505	14.1	100%

※R3 年度：実施日にコロナ休業 8 日間を含めず

2 就労定着支援事業『明和定着支援事業』

- ・新しく始まった事業として計画も事業の在り方を模索して始めたが、企業やすでに企業で働く障害者に定着支援事業が浸透していないことがわかったため、計画を変更し、法人内の就職者支援や利用者確保を充実させる活動に力を注いだ。
- ・受注作業や体験実習実施など、試行的だが企業とのつながりもできてきた。高工賃につながる作業に関しては、今後もビーサポートと情報共有し継続的に行う。

ア 登録および利用状況

	年度登録者	年度解除者	期末登録者	延べ利用実績数
R1年度	8	1	16	165
R2年度	7	5	18	197
R3年度	1	5	14	194
(R3年度解除者)：契約満了3名 離職2名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1年度	0	0	0	14	2	0	16
R2年度	0	0	1	15	2	0	18
R3年度	0	0	1	10	3	0	14

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	16	0	0	0	0	0	0	16
R2年度	17	0	0	1	0	0	0	18
R3年度	13	0	0	1	0	0	0	14

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	0	12	2	2	0	0	16	27.4歳
R2年度	0	14	2	2	0	0	18	26.1歳
R3年度	0	12	1	1	0	0	14	25.1歳

3 福祉ホーム 『あかり』・『黎明荘』

- ・コロナ禍でも生活環境の向上につながるよう「巣ごもり快適計画」と称して以下の活動を実施した。
 - Wi-Fi 設置、エアコン更新、耐震部品による家具固定、寄贈布団の配布。
 - 浴室の衛生用品買い替え、毎日洗髪できるよう洗面台の開放。
 - 福祉ホーム利用者向けレク「居酒屋」の実施。
 - 惣菜の販売
 - 害虫予防、コロナ予防も兼ねた次亜塩素酸ナトリウムの噴霧清掃の実施
- ・浴室特浴の改修を前提とした利用者の聞き取りを行なうが改修を希望する声が少ないため、使いやすさを追求した修繕や備品の更新について検討を進めることとなった。

(1) あかり

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1 年度	0	4	33	40
R2 年度	6	1	38	
R3 年度	3	5	36	

(R3 年度退所者) : 介護老人保健施設 2 名、有料老人ホーム 1 名、グループホーム 1 名、入院 1 名

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	10	23	0	4	3	0	33 (7)
R2 年度	13	25	0	6	2	0	38 (8)
R3 年度	12	24	0	5	1	0	36 (6)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	8	0	3	14	5	2	1	33
R2 年度	10	0	1	14	10	3	0	38
R3 年度	10	0	2	12	11	1	0	36

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	1	4	0	5	10	13	33	53.4 歳
R2 年度	0	6	0	6	13	13	38	52.5 歳
R3 年度	1	6	1	4	13	11	36	50.9 歳

(2) 黎明荘

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1 年度	0	0	4	10
R2 年度	0	0	4	8
R3 年度	0	0	4	

(R3 年度退所者) : 0 名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	1	3	0	0	0	0	4
R2 年度	1	3	0	0	0	0	4
R3 年度	1	3	0	0	0	0	4

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	0	0	1	3	0	0	0	4
R2 年度	0	0	1	3	0	0	0	4
R3 年度	0	0	1	3	0	0	0	4

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	0	0	1	1	1	1	4	49.3 歳
R2 年度	0	0	1	1	1	1	4	50.3 歳
R3 年度	0	0	1	1	1	1	4	51.2 歳

4 同行援護・重度訪問介護等事業 『みなとガイドネット』

- ・コロナ禍にあり活動自粛やイレギュラー対応に加え、職員やヘルパーの体調不良、長期休み等により計画的な運営が難しく、全体が集まる研修等については実施することができなかった。
- ・登録ヘルパーの資格取得支援の準備を進めたが希望者が現れず実施することができなかった。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	30	23	0	8	0	0	61
R2 年度	33	22	0	4	0	0	59
R3 年度	32	21	0	5	0	0	58

イ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	7	1	6	20	11	8	8	61
R2 年度	3	1	7	22	11	7	8	59
R3 年度	6	1	7	18	10	8	8	58

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	3	5	2	9	17	25	61	54.9歳
R2年度	1	5	2	8	16	27	59	57.1歳
R3年度	0	6	1	8	16	27	58	54.6歳

エ 活動実績時間数（月平均）

	重度訪問介護	移動支援	居宅介護	同行援護
R1年度	274.6時間	39.2時間	77.3時間	353.8時間
R2年度	223.6時間	31.9時間	70.2時間	284.7時間
R3年度	176.5時間	18.6時間	63.3時間	339.3時間

5 相談支援事業 『明和障害者相談センター』

- ・オンライン開催を中心に近隣区の部会や研修に積極的に参加し、地域の関係機関と連携を強化することができた。
- ・視覚総合相談室職員を講師に招き、視覚障害基礎理解と視覚障害者の移動について研修会を実施した。
- ・加算対象となる研修に計画的に参加し、全ての支援体制加算の算定が可能になった。
- ・拠点の職員会議内で「自閉症の理解と対応」のオンライン研修を企画・実施した。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
R1年度	349	541	276	9
R2年度	316	710	285	35
R3年度	394	1035	296	39

6 障害者就業・生活支援センター事業 『海部障害者就業・生活支援センター』

- ・ハローワーク津島との連携と積極的なアプローチにより法定雇用率未達成企業 11社・新規地元企業 11社に訪問・支援を行ない、10名の採用につなげた。
- ・雇用が進まなかった圏域内の市役所等に積極的な関係構築と支援を行ない 5名の採用につなげた。
- ・地域の企業・行政機関・関係機関と密接に関わり続けてきたことから当年度は就職者数、実習件数、定着率、相談支援件数のすべてにおいて過去最高の実績を出すことができた。
- ・活動地域となる中川区・港区について積極的な活動を開始した。次年度は更に強化した活動を行なう。

ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数（手段別） (件)

センターへの来所（本人の他、家族等も含む）	509
電話・Fax・E-mail	2,363
職場訪問（定着支援の他、職場実習支援を含む）	336
家庭・入所施設への訪問	32
その他（ハローワーク・行政機関・事業所見学等への同行他）	130
合計	3,370

イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数（内容別）※（ ）内は前年度実績（件）

		身 体	知 的	精 神	発 達	難 病	高 次 脳	そ の 他	合 計
令和元年度		293	903	1,702	153	31	45	33	3,160
令和2年度		160	1,058	1,721	26	45	53	5	3,068
令和3年度		113	1,158	1,969	43	17	24	46	3,370
令和3年度内訳	就職に向けた相談・支援	54 (90)	322 (365)	926 (801)	9 (6)	4 (26)	8 (27)	21 (4)	1,344 (1,319)
	職場定着に向けた相談・支援	45 (59)	558 (424)	664 (568)	32 (14)	12 (18)	14 (11)	9 (0)	1,334 (1,094)
	日常生活、社会生活に関する相談・支援	0 (5)	44 (65)	89 (118)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	3 (0)	137 (190)
	就業と生活の両方にわたる相談・支援	14 (6)	234 (204)	290 (234)	2 (6)	1 (1)	1 (13)	13 (1)	555 (465)

ウ 相談・支援後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
R1年度	44	20	0	0	64
R2年度	45	13	2	0	60
R3年度	44	6	3	5	58
その他：弥富市役所2名、あま市役所1名、飛島村役場1名、津島税務署1名					

IV 港ワークキャンパス 拠点

障害福祉サービス事業	『港ワークキャンパス』
就労継続支援事業A型	ライトハウス名古屋金属工場
就労継続支援事業B型	KAN食品開発センター、かんせい工房、あおなみキャンパス
福祉ホーム	『みなと』

【拠点全体】

「コロナ禍」、「競合先との攻防戦」、「様々な原材料の値上げ」という困難な状況が続く中、継続的な営業力と製造力（生産数と品質、短納期等）で目標売上額を達成できた。最低賃金の増額にも対応し、B型利用者へは期末に寸志支給にもつなげられた。多忙な中、職員間の連携や従業員（利用者）の仕事に対する堅実な姿勢とスキルアップが支えとなっている。従業員（利用者）の高齢化や障害特性上の課題の複雑化などを踏まえ、適性に合った作業提供を進めてきた中で、一般就労につながった利用者も見られた。また、B型利用者の施設外就労（清掃、リサイクル作業）への試みも開始し、定着しつつある。コロナ禍ではあるが、職員と従業員による定期的なウォーキングの機会を設け、継続させてきた。また、施設内トレーニング室を活用する利用者も増えてきた。こういった状況を踏まえ、健康増進アプリの活用を模索し次年度につなげる。

<拠点重点項目>

（1）事業の活性化

- ・A型ではコニシ(株)案件が好調で且つ新製品導入したため前年度比で売上114%と好調で、B型も109%と同様で着地した。当年度はブリキ板や小麦粉等の資材仕入価格の値上げがあり、客先への価格転嫁や生産効率化、経費削減を含めた対応を実施した。しかし、次年度は更に世界情勢の影響から多くの値上げが予測されるため、更なる対応が迫られる。
- ・利用者確保に関しては、特別支援学校との連携を密に行った等の理由から次期新卒者を5名採用することができた。更に、「パンのお仕事土日体験会」やオンラインでの事業説明会を実施し将来的な利用を検討する本人やご家族に対するPRを積極的に行った。

（2）感染予防対策の継続実施と事業継続計画（BCP）の作成

- ・法人にて契約したコンサル業者主導により、作成に向けた流れができた。これにより必要な内容の概ねについてはまとめられた。今後は、この内容を実際の緊急事態場面にて活用できるものに発展させる。

<各事業の計画>

1 障害福祉サービス事業『港ワークキャンパス』（多機能型）

（1）就労継続支援事業 A型

①安定した事業の基盤づくりを目指す。

- ・新規取引先については、インターネット1件、紹介1件の計2件取引が始まった。金額としては2社で数十万円程度であるが、小さい取引先を増やすことで利益率が高い商品を多く出荷できることになる。インターネットからの問い合わせが増えていることから現在の無料ウェブサイトではなく検索軸が高く設定されるウェブサイトに変更することで来期は更に案件を増やせるように計画する。
- ・シーリング剤業界では、大手メーカーの部門が外資系接着剤メーカーに売却されることになり、ワークキャンパスの取引先へ顧客が流れた。これにより取引先のシーリング剤市場でのシェアが上がったことから納めているシール缶が前年度比107%と大きな売上げとなった。
- ・既存取引先にて新製品の導入が決定した。この商品はホームセンター向けで一般消費者が直接購入する製品となるため、品質など従来の製品よりも注意をして生産を行った。これを好機と捉えより品質を重視できる仕組みを作り、顧客満足度を更にあげることができた。
- ・新たな事業として検討した「缶バッジ製造」に関しては、最終工程のアセンブリ作業に留まらず缶バッジそのものの製造（プレス機使用）までの一連した作業獲得に向け取引先企業と打合わせを行い検証していたが、様々な検討の結果、缶バッジ事業は行わないことに決定した。
- ・今まで競合他社であった製缶メーカーと関係を深めることに成功した。これにより自社で製造していない製品を他社へ提案できるようになり、両社売上が上がった。次年度では更に取り扱い商材を増やし、連携を深めていきたい。
- ・施設外就労について、1件目（リサイクル業）では作業量拡充に対し、自施設のA型利用者だけでは対応ができないため、他事業所の協力により人員増員を行い結果的に売上げ増につなげることができた。少しでも作業時間を延ばせるように、直行直帰を導入し作業時間の延長も行った。これらの要因が重なり当年度は前年度比156%まで売上げを伸ばすことができた。
- ・また前年度末より2件目（充填作業企業）を実施したが、作業量が安定しない、少人数での作業（2名程度）となる、コスト面やその他の条件面で厳しいと判断し、6月にて一旦ストップすることとなった。今後は就労先企業との再検討を行い、慎重に進める。当年度については体制の問題もあり、アビズへの施設外就労を重点的に対応することができた。
- ・来期に向けて基本報酬等の見直し（A型のスコア表）など再検証し、仮説と検証などシミュレーションを行った。来期には当年度以上（ランクアップ）させることのできる取組を検討する。

②健康増進プロジェクト

- ・ B型利用者数名よりトレーニング室利用希望の声が上がり、環境を整え利用を認めた。(参加者5名)。
- ・ 一部の職員とA型利用者により業務終了後のウォーキングを実施。仲間で楽しく運動を取り組むことでの信頼関係づくり等につながられた。次年度は他利用者にも展開できるように進める。

ア 賃金支払状況

科目	在籍者(名)			賃金(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R1年度	56	4	60	268,928	78,001	129,285
R2年度	54	2	56	274,692	76,573	130,342
R3年度	51	2	53	240,185	66,615	134,342

イ 就労事業(生産物等)の状況(概要)

金属加工事業	ブリキ缶製造：1,803,578 缶出荷		
施設外就労	複合機部品開梱作業	： 953,408 kg実績	
	手分解作業	： 212,087 kg実績	
	その他開梱作業	： 38,935 kg実績	
	パレット開梱作業	： 124 パレット	

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	2	3	60	60
R2年度	0	4	56	
R3年度	2	5	53	

(R3年度退所者)：他の就労継続支援A型2名、その他3名

エ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1年度	7	19	4	27	5	0	60(2)
R2年度	7	18	3	26	5	0	56(3)
R3年度	6	19	2	24	4	0	53(2)

()内は重複障害再掲

オ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	48	2	4	6	0	0	0	60
R2年度	45	0	4	7	0	0	0	56
R3年度	39	0	4	9	1	0	0	53

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	0	17	8	12	14	9	60	44.0歳
R2年度	0	13	9	13	12	9	56	45.2歳
R3年度	0	10	8	10	14	11	53	46.5歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
60	R1年度	255	14,149	55.5	92.5%
	R2年度	254	13,404	52.8	88.0%
	R3年度	254	12,607	49.7	82.8%

(2) 就労継続支援事業 B型

①利用者確保による収入アップ。

- ・かんせい工房再開に向けた説明会を開催（15名以上の利用者ご家族が出席）。
- ・家族向け広報紙「パン通信」春号を発行した。
- ・「パンのお仕事土日体験会」、父母の会主催「将来の働く場について」オンライン説明会などを実施し、利用実習や将来的な利用につなげる企画を行った。
- ・結果、前年度比15%（1,200万円）のアップを果たした。

②2件以上の新規商品や販路拡大による事業の活性化を図る。

- ・パン事業として米粉を使ったプレーン味の新規販売を行った。また、新たな取引先として5つの商社との取引を開始し、年間を通しての販売数増となり、売上目標達成につなげることができた。下請け作業では、前半、缶バッチ作業に挑戦したが採算ベースに乗せることができず撤退することとなった。後半では、新規でヘルメットの組立作業を開始し、次年度に向けて柱となる作業にする体制作りを進めている。
- ・かんせい工房を6月より再稼働した。職員配置や繁忙期の作業人員不足のため一時的にワークキャンパス本体へ合流したが、年度末から再度体制を整えて、お菓子のアSEMBリ、廃棄CD解体作業などでの活用を行った。
- ・パン工場の職員増員、利用者の配置転換（適材適所）を実施し、より効率的に製造ができるようになった。また、新規作業（ヘルメット組立）の作業場やパン缶在庫場所の確保をA型にも協力してもらいながら進めてきた。

③働くことの意識改革

- ・主任以上でのB型運営会議を4回実施し、現状確認や改善について検討してきた。ポートメッセなごやにて行われた展示会「第4回オフィス防災EXPO」に参加して、防災関連企業の商品や取り組みについて情報収集を行った。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R1 年度	28	25	53	R1 年度		45,898
R2 年度	24	26	50	R2 年度		46,080
R3 年度	26	27	53	R3 年度		48,279
パン缶	12	10	22	90,108	27,620	56,520
下請作業	14	17	31	111,302	14,933	42,566

※在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

パンの缶詰 製造事業	販売缶数：947,048 缶（内製 937,048 缶、外注仕入 10,000 缶）
下請作業	菓子袋詰め作業（年末年始お土産用等）：97,657 個 レトルト加工（どて煮等）：1,288 個 ヘルメット組立：7,510 個 物品検品作業：57,000 個 廃棄CD解体：13,718k g

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R1 年度	6	4	53	60
R2 年度	5	8	50	
R3 年度	6	3	53	

(R3 年度退所者)：一般就労 1 名、他の就労移行 1 名、他の就労継続 A 型 1 名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	5	10	1	31	9	1	53(4)
R2 年度	6	10	3	30	7	1	50(7)
R3 年度	6	8	1	30	9	1	53(2)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	34	1	4	6	7	1	0	53
R2 年度	28	1	5	6	10	0	0	50
R3 年度	28	0	6	7	10	1	1	53

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	4	25	3	7	5	9	53	37.5歳
R2年度	3	27	3	7	4	6	50	35.4歳
R3年度	3	31	2	4	5	8	53	35.8歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
60	R1年度	255	9,908	38.9	64.8%
	R2年度	254	11,032	43.4	72.3%
	R3年度	254	11,355	44.7	74.5%

(3) 事務部

①本部サーバーの共有フォルダを活用できる環境の構築

- ・現状把握は完了。動作環境の悪いファイルを本部サーバーへ移設及び管理することとし、残りのファイルは内部整理が必要となるため、仕分けする検討会議を開き移行計画を進める予定であったが次年度順次実施予定。

②一業務二名体制での業務強化

- ・業務の割り振りを決め、事務部2名での体制を整えて順調にすすめることができた。今後はさらに見直し可能な業務は再検証しながら改善することとする。

3 福祉ホーム 『みなと』

入居者が快適に利用できる環境づくり

- ・コロナ禍という状況の中、個別にてヒアリングする機会を継続的に実施した。そうした中、数名の入居者より希望があった休日シャワー浴の期間を拡充した。従来は、夏場の期間限定であったものを年間通しての開放とした。福祉ホーム内共有部分の美化を目指した、利用者と職員共同による清掃活動も継続的に実施した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	0	2	14	20
R2年度	1	1	14	
R3年度	1	3	12	
(R3年度退所者)：自宅1名、グループホーム1名、他福祉ホーム1名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	4	9	1	0	0	0	14
R2 年度	4	9	1	0	0	0	14
R3 年度	3	8	1	0	0	0	12

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	8	0	2	4	0	0	0	14
R2 年度	7	0	2	5	0	0	0	14
R3 年度	7	0	2	3	0	0	0	12

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	0	1	1	3	4	5	14	53.4 歳
R2 年度	0	1	1	4	4	4	14	52.4 歳
R3 年度	0	1	1	2	4	4	12	53.5 歳

V. 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

障害者支援施設	『戸田川グリーンヴィレッジ』
生活介護事業	
施設入所支援	
短期入所事業	
通所生活介護事業	木の香
(共生型 地域密着型通所介護)	
相談支援事業	『戸田川障害者相談センター』

新型コロナ予防策を徹底しながら日中活動や短期入所受け入れ、面会、外出、外泊など段階的緩和を進めた。4月に管理者等の交代など大きな組織改編があり、改めて職員・利用者に運営方針を周知した。多職種協働によるチームアプローチを基本とし、メーリングリストによる情報共有や伝え合うことの大切さ、各種会議や委員会活動等を通して互いを理解し支え合う職場環境への改善に取り組んだ。上半期、介護職員の退職者が7名を数えたため、下半期は人員確保に奔走したが、採用と定着に苦戦し、他職種の採用により協力体制を整えながらの支援を進めた。

仮称グラン木の香として明和寮生活介護と協同で開設整備委員会を組織し生活介護事業の新規開設に向けた準備を進めたが、用地選定に時間を要し、開設が令和5年度上半期となった。

開設10周年記念事業として9月に秋祭り、10月に利用者音楽発表会を開催できた。

<拠点重点項目>

(1) 事業の活性化

- ・職種別業務分掌の見直しを実施し、共有フォルダに保存し共有を進めた。
- ・1年前にさかのぼっての座学による入職時研修、新任職員へのオンデマンド研修、全職員への人権研修、オンラインでの外部研修などを計画的に実施した。
- ・オンライン面会体制の整備、iPad動画の活用、利用者音楽発表会の家族等へのYouTube配信など実施した。サーマルカメラ(非接触型体温計)の設置も行った。記録システムの音声入力を試行したが、導入には至らなかった。眠りスキャンの機器選定、今後のナースコール取り換えに向けWi-Fi環境工事を完了した。
- ・陰圧室については職員の抗原検査受検や緊急ショート利用などで活用した。

(2) 感染予防対策の継続実施と事業継続計画(BCP)の作成

- ・防災と感染症対策のBCPは第一段階を策定し、職員にも共有しながら、さらに内容の改善を進めた。

(3) その他

- ・10周年記念事業は9月、10月に開催。記念誌については次年度夏に完成予定となった。緊急事態宣言下となった秋祭りは家族の招待は行わず利用者対象に開催した。ゲームや体験コーナーを分散させて配置し、ステージ発表は2会場に分けメインステージから中継する形とした。利用者音楽発表会は個人発表の家族に限り、時間を定めて招待する形で開催した。
- ・職員の面談等は定期的に行い悩みに寄り添う形をとったが、もうひとつの目標だった職員の休憩スペースの拡充はできていない。ただ、介護詰所の窓にフィルムを貼ったり、個人ボックスを大きくしたりと職場環境改善を行った。

1 障害者支援施設 『戸田川グリーンヴィレッジ』

(1) 生活介護・施設入所支援事業

【相談員部門】

- ・コロナ禍での外泊・外出や日中活動に関して、他事業所と情報交換を行い参考にしながら変更・調整を重ね、各々実施した。
- ・今後の生活というテーマに対し、施設行事や活動に関連付けて自身の希望を叶えていきたい等、利用者の様々な意向を聴き取れた。利用者ニーズの高かった組紐ボランティア活動も再開できた。
- ・新型コロナの状況を鑑み、面会の中止・再開を繰り返した。中止の間であっても、利用者と家族のコミュニケーションが途絶えないようにオンライン面会を実施した。遠方に暮らす家族や親族との面会が可能となり、利用者のメンタル面での安定を図ることができた。

【介護部門】

- ・各班会議を毎月実施し、職員同士で支援方法を検討しチーム支援の実施に向けて前進した。また、介護リーダー会議も毎月実施し、班会議からの課題解決や介護部署からの提案を施設経営委員会に行った。
- ・個別支援会議を毎月開催し、利用者、生活支援員、相談員、関係職種等それぞれの意見をサービス管理責任者が調整し、利用者支援力向上が図れた。ケース検討会議も随時行い、その時々利用者支援の課題を調整できた。
- ・日中活動については感染予防に留意しながら実施できた（散歩、カラオケ、足浴、創作、おやつ作り、ドライブ、ボッチャ、歩行トレーニング、水彩画等）。介護以外の部署とも連携し日中活動を行うことができた。また、利用者誕生日企画として食事のデリバリー提供の「GO TO」企画も好評のうちに完了できた。
- ・季節行事として前年度開催できなかった秋祭りを始め、各種行事（BBQ、花火、クリスマス会、節分等）も開催できた。

【看護部門】

- ・感染予防対策は継続して実施している。看護業務マニュアルはコロナ対応を踏まえた内容に改訂することができた。今後も継続して見直す。
- ・希望者へのコロナワクチン接種は3回実施することができた。
- ・看護研修は「緊急時の対応」と「PTEG 管理について」2回実施することができた。次年度は看護師2名の異動に伴い業務構成が大きく変化するため、個々の役割を明確化し、引き続き協力体制を強化する。

【セラピスト部門】

- ・小集団や個別リハビリ（リハビリテーション加算の取得）は継続して実施できた。今後は音楽とストレッチを融合させた新たな活動を検討する予定。
- ・10月31日に10周年記念事業として利用者音楽発表会を実施し、YouTubeにアップロードしたことで家族にも日々の成果を披露することができた。

【給食部門】

- ・業務分掌の作成完了したため、それを基に次年度に職員間の技能共有へつなげる。
- ・5月・8月・12月には施設内提供の行事食を、3月には飲食店の持ち帰り企画を実施した。年間予定通り4回の行事食を実施した。
- ・機器は2台更新完了し、残りは次年度実施予定。安心安全な給食提供につながる設備維持を行っている。

【事務部門】

- ・従来業務の可視化、共有は達成したが、それら選別し先を見据えた分掌を行うには至らなかった。
- ・全職員の負担軽減へ向け、購買ルールの簡素化に着手し実行した。

【喫茶・環境部門】

- ・喫茶について感染予防と密を避けるため時間を定めて利用いただいた。途中再開した短期入所利用者へは居室へのデリバリーを基本として対応した。
- ・洗濯は業務の確実性と効率化を目指し、午後から職員2名体制とした。業務量や業務の煩雑さは、まだまだ改良の余地がある。
- ・掃除部署は下半期は1名欠員状況であった。法人内利用者による施設外就労や事務職員等が対応することで乗り切った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	3	3	40	40
R2年度	1	1	40	
R3年度	1	1	40	
(R3年度退所者)：日中支援型グループホーム 1名				

イ 障害別状況（年度末時点） （ ）内は重複障害再掲

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
脳性まひ	21	21	22
脳障害後遺症	6	6	6
頸髄損傷	1	1	1
二分脊椎	2	2	2
化膿性脊髄炎	1	1	1
視覚障害	4	4	4
リウマチ	0	0	0
筋ジストロフィー	2	2	2
パーキンソン症候群	1	1	1
多発性硬化症	0	0	0
脊髄小脳変性症	1	1	0
外傷による体幹機能障害	1	1	1
知的障害	(23)	(24)	(25)
精神障害	(2)	(2)	(2)
合 計	40(25)	40(26)	40(27)

*最も顕著な障害で分類

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R1年度	0	0	0	0	0	5	35	40
R2年度	0	0	0	0	0	5	35	40
R3年度	0	0	0	0	0	7	33	40

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	0	2	2	5	16	15	40	53.5歳
R2年度	0	2	3	3	16	16	40	54.6歳
R3年度	0	1	4	3	16	16	40	55.5歳

オ 生活介護 利用状況（短期入所利用者の日中利用含む）

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	R1年度	314	12,446	39.6	99.1%
	R2年度	313	11,551	36.9	92.3%
	R3年度	313	11,656	37.2	93.1%

カ 施設入所支援 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	R1年度	366	14,431	39.4	98.6%
	R2年度	365	14,535	39.8	99.6%
	R3年度	365	14,481	39.7	99.2%

キ ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
組紐	10回	8名	47名
入浴介助等	7回	1名	7名

(2) 短期入所事業

- ・通所生活介護でのコロナ陽性者発生等の影響で短期入所を一時的に停止することもあったが、地域福祉の使命として緊急利用含め受け入れを続け、年間利用稼働率は66.3%（前年度比+16ポイント）まで回復できた。
- ・各部署職員でショートステイ支援検討委員会を定例開催し、コロナ感染予防対策と利用者支援の課題解決等を順次行った。活動制限の段階的緩和（3泊4日以上の利用者への入浴の再開、一部の日中活動への参加、喫茶のデリバリー利用等）を行い、利用者QOL向上を図り利用自粛者に利用再開を呼びかけると共に、2件の新規受け入れを行い利用稼働率回復につなげた。

ア 短期入所及び通所利用状況

	利用人数	延べ 利用日数	1日平均 利用者数	利用 稼働率	通所利用 人数	通所利用 延べ日数
R1年度	620	2,673	7.3	91.3%	43	43
R2年度	322	1,471	3.9	50.3%	0	0
R3年度	513	1,940	5.3	66.3%	3	3

(3) 通所生活介護事業（共生型 地域密着型通所介護） 「木の香」

- ・コロナ禍においても最大限の感染予防に努め、より質の高い個別支援に取り組んだ。下半期にコロナ陽性者発生の影響も受けたが、91.3%の高い年間利用稼働率となった。
- ・アプリを使った家族間・職員間の連絡調整ツールの準備を進めており、登録数も一定数確保できた。しかし、実際に活用には至っておらず次年度も準備を続け、利用者・家族に安心していただけるツールとなるようにする。
- ・新規事業計画はやや準備に遅れが生じているが、令和5年度上半期の開設に向けて継続して準備を進める。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R1 年度	6	2	25	10
R2 年度	2	2	25	
R3 年度	0	3	22	
(R3 年度退所者) : 日中支援型グループホーム 1 名、特別養護老人ホーム 1 名、 県内障害者支援施設 1 名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	(3)	25	0	(19)	(2)	0	25(24)
R2 年度	1	24	0	(20)	(2)	0	25(22)
R3 年度	(1)	22	0	(18)	(2)	0	22(21)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R1 年度	0	0	0	1	1	4	19	25
R2 年度	1	0	0	0	1	4	19	25
R3 年度	0	0	0	0	1	3	18	22

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R1 年度	0	10	3	6	4	2	25	39.6 歳
R2 年度	0	8	4	7	4	2	25	39.7 歳
R3 年度	1	7	5	4	5	0	22	37.9 歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	R1 年度	237	1,959	8.2	82.7%
	R2 年度	239	2,054	8.5	85.9%
	R3 年度	234	2,137	9.1	91.3%

2. 指定相談支援事業 『戸田川障害者相談センター』

- ・業務量や目標の達成状況を可視化することで見通しをもって毎月新規契約を結ぶことができた。
- ・相談員3名体制に増員されたことで事業目標を一部変更し、地域移行支援について試行的に実施し、2件終了。精神障害の方にも対応した地域包括システムに関する研修を相談支援専門員1名が修了。12月より精神障害者支援体制加算の算定を開始した。
- ・必要時には別室ワークやテレワークを柔軟に活用し、感染予防と業務効率の両立に努めた。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
R1年度	112	246	107	4
R2年度	98	327	118	7
R3年度	133	369	144	10

VI 熱田・港地域生活支援拠点

日々の暮らし相談室

公益事業

相談支援事業

地域活動支援事業

放課後等デイサービス

放課後等デイサービス

基幹相談支援センター

『視覚総合相談室』

『ひびの障害者相談センター』

『地域活動支援センター あちえっとほーむ』

『わくわくキッズ』

『わくわくステップ』

『港区障害者基幹相談支援センター』

- ・日々の暮らし相談室では、視覚総合相談室と相談事業所の連携による利用者支援を実施、また自立支援連絡協議会への参加など他機関とのつながりによるチームアプローチを実施した。下半期からは歩行訓練士を増員、訓練希望者の要望に応じた柔軟なスケジュールでの歩行訓練の実施や、複数講師による同行援護従事者養成研修の開催など厚みを増した事業展開を行うことができた。
- ・港区障害者基幹相談支援センターは、多人数での相談や会議が開催できる事務所スペースを近隣に開設、研修会の開催や地域との交流イベントの実施など基幹センターの役割を担う場所として新たな活動スペースを確保した。
- ・地域活動支援事業や放課後等デイサービスでは、支援計画の更新に合わせ、利用者の意向に応じたデジタル化による支援を推進した。オンラインによる創作支援、活動情報のデジタル化などは利用者満足度の向上につなげることができた。

<拠点重点項目>

(1) 事業の活性化

- ・事業計画に基づく支援方針を共有し、利用者へのサービス向上につながる職員の連携を意識するよう取り組みを行った。他部署の動きも意識できるよう合同会議の開催を通じ各利用者の支援項目を共有することで、個人対応からチーム対応にシフトすることで協力体制が整いつつある。
- ・支援計画の更新に合わせ、既存利用者の希望に応じた利用日の調整、新規受け入れについては関係機関への情報発信等により利用稼働率改善に取り組んだ。新規利用者は増えつつあるが、コロナの影響による利用控えや陽性者の発生に伴う休業の影響もあり、各事業の利用稼働率は、わくわくキッズ 81.3%、わくわくステップ 75.0%、あちえっとほーむ 77.4%の結果となった。

(2) 感染予防対策の継続実施と事業継続計画（BCP）の作成

- ・防災に対応した BCP を、法人による一体的取り組みの中で各事業ごとに作成し、拠点内での共有と定期的な見直しを行った。
- ・感染症対策は国や市町村の感染予防対策マニュアルに基づき、陽性者の発生時も行政との連携により感染拡大の対策を行うことができた。
- ・BCP の策定に合わせて各事業の防災計画も見直し、地域との協力関係を軸とした

避難計画や備品の見直しを随時行った。

(3) 人材の育成

- ・定期面談に加え、業務中にも短時間で小さな悩みを上席者と相談、解決につなげる個別ミーティングを当年度より実施した。
- ・年間計画に基づく研修参加、職員の自主的な研修参加を推進した。また、視覚総合相談室では視覚障害に関する出前講座を法人内3拠点で実施した。

1 公益事業 『視覚総合相談室』

(1) 視覚相談事業

- ・問い合わせ件数・人数とも増加しており、名古屋市外からの問い合わせも増えているので事業の認知度は上がっている。特筆すべきは眼科、総合病院などの医療機関のケースワーカー、視能訓練士、医師などの支援者からの問い合わせが増加した点となる。特に入院中患者の退院後の生活について問い合わせが複数あり、以前は大きな隔たりのあった医療と福祉の間の距離が縮まりつつある表れだと言える。サービス支援に入っている相談支援専門員、ヘルパー事業所、就労施設などからの相談も増え、視覚障害に特化した相談窓口としての専門性を発揮することができつつある。

ア 相談者

	新規案件	継続案件	合計 (件)
R1 年度	147	94	241 (実人数 202 名)
R2 年度	187	155	342 (実人数 266 名)
R3 年度	232	133	365 (実人数 307 名)

※新規は初回相談件数、継続は同内容による2回目以降複数回の相談件数

※令和元年度は6月から10ヶ月間の実績

イ 相談方法

	来所	電話	メール等	訪問	合計 (件)
R1 年度	33	181	6	21	241
R2 年度	30	266	13	33	342
R3 年度	35	280	28	25	368

ウ 相談者種別

	本人 (当事者)	家族	支援者	知人/友人	合計 (件)
R1 年度	114	26	94	7	241
R2 年度	167	20	146	9	342
R3 年度	142	48	169	6	365

エ 相談内容（延べ数）

	学習相談	視覚障害者理解等	生活相談	障害受容	歩行訓練関連	その他	合計
R1 年度	32	60	107	72	59	28	358
R2 年度	43	101	200	80	47	54	525
R3 年度	47	163	274	171	91	28	774

（2）歩行訓練事業

- ・当年度は目標件数 22 件/月には僅かに届かず 20.7 件/月となったが、前年度と比べると訓練数は回復傾向にある。歩行訓練士複数体制も当年度中に整ったため、次年度はより訓練回数の増加と目標クリアを目指す。
- ・また、年度末には 4 月からの就職・進学先の経路を単独歩行をしたいという、いわゆる「期限付き」の依頼が多数あったが、歩行訓練士複数体制により円滑に訓練を行うことができ利用者ニーズに応えることができた。今後の訓練ニーズにも即応できるものと思われる。

ア 歩行訓練実績

	相談件数	歩行訓練実施延べ回数	修了者数
R1 年度	76 件	265 件（来所 40 訪問 225）	39 名
R2 年度	50 件	206 件（来所 51 訪問 155）	28 名
R3 年度	69 件	249 件（来所 41 訪問 208）	30 名

イ その他活動

	名古屋盲学校自立活動 （歩行訓練）		眼科三宅病院ロービジョン外来		名古屋市立大学病院ロービジョン外来	
	活動時間	延べ人数	実施回数	延べ人数	実施回数	延べ人数
R2 年度	91 時間	50 名	11 回	32 名	3 回	4 名
R3 年度	91 時間	55 名	12 回	40 名	1 回	1 名

（3）同行援護従業者養成研修事業

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うまん延等重点措置が発出されている期間での開催時は、会場を 2 つに分けての Zoom による合同講義、実技は補助講師をサテライト会場に 1 名配置しての対応で研修を実施した。今後も感染予防対策としてリモートでの研修は積極的に活用する。
- ・また、研修の広報対象を福祉分野以外にも積極的に行ったことで、前年度よりもさらに福祉分野以外からの受講者が増加した。学割制度の効果もあり学生の受講者も増えている。当年度はこの研修を通じてガイドネットあいさぽーとに 6 名の登録があった。

- ・実施回数 2回

港会場(9月～10月)5日間 修了者数 16名(うち福祉分野以外7名(学生1名))

昭和会場(2月～3月)5日間 修了者数 16名(うち福祉分野以外12名(学生3名))

(4) 派遣事業

- ・法人内外の施設や団体と連携し視覚障害理解推進(点字・歩行関連・当事者体験講話等)の講習の講師を務めた。前年度から開始された代筆・代読支援員派遣事業(名古屋市補助事業)の影響で、新たに代筆・代読にテーマを絞った講習依頼も入るようになり、視覚総合相談室の事業の厚みが講師派遣拡大につながっているといえる。

ア 講師派遣実績(一部再掲)

	歩行関連	点字関連	ロービジョン 外来	名古屋盲学校 (自立活動)	啓発 その他	合計
R1年度	10	13	14	—	1	38
R2年度	3	0	14	32	7	56
R3年度	4	2	13	33	6	60

※令和元年度は6月から10ヶ月間の実績

(5) 名古屋市代筆・代読支援員派遣事業

- ・事業開始2年目を迎え、利用者増加を目指して各区基幹センター、いきいきセンターなどへ訪問し積極的な周知活動を実施した。
- ・支援員養成講習については、当年度も定員の3倍近い申し込みがあり、受講者20名のうち18名から支援員への登録申請があった。関心やニーズが高いにも関わらず利用登録者が伸び悩む理由は、同行援護や居宅介護(家事援助)と併用できない点が大きく起因している。
- ・視覚障害者のニーズ把握を行い、より有意義な名古屋市の事業となるよう次年度のアンケート実施に向けて準備を進めた。

ア 代筆・代読支援員派遣事業実績

	養成講習受講者	支援員登録者	利用登録者	派遣延べ回数
R2年度	34	31	14	27
R3年度	20	31	16	32

※支援員・利用登録者の数は3月末時点。

※令和3年度の支援員登録申請18名については、令和4年4月に支援員登録となる。

2 相談支援事業 『ひびの障害者相談センター』

- ・相談支援事業連絡会を定期開催し、メーリングリストも活用した情報共有など法人内相談員間でも連携協力体制が整いつつある。
- ・行動障害支援体制加算と精神障害者支援体制加算対象の研修受講が修了したこと

により算定が可能となった。

- ・県内での身体障害のピアサポーター研修が開催されず、加算取得はできなかった。
- ・地域移行支援は4件のケースに対応、2名の方が地域に戻り、次年度からは地域移行Ⅱが算定可能となる。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
R1 年度	156	286	163	24
R2 年度	201	480	174	21
R3 年度	214	556	133	16

※令和元年度は6月から10ヶ月間の実績

3 地域活動支援事業 『地域活動支援センター あちえっとほーむ』

- ・利用者の希望に沿ったプログラムの提供、研修参加による職員の資質向上への取り組みを行ったが、コロナの影響による外出企画の自粛や一部活動の中止や縮小などにより利用稼働率は77.4%の結果となった。
- ・登録者全員の地域活動支援計画更新を実施、利用者の体調確認や希望に沿うプログラムの提供に合わせて利用日の調整を行い、満足度の向上につながった。
- ・利用者満足度の向上の一環として、視覚障害者も毎日の活動内容が自宅で確認でき、あちえっとにおける活動内容の幅が広がるよう、活動予定表を音声 PC に対応するデータによるメール配信を実施した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R1 年度	6	7	83	19
R2 年度	5	4	84	
R3 年度	10	5	89	

(R3 年度退所者) : 就労 4 名、病気 1 名

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	12	42	6	17	10	1	83(5)
R2 年度	15	39	7	17	9	1	84(4)
R3 年度	21	38	7	18	9	1	89(5)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R1年度	0	5	9	14	14	41	83	57.2歳
R2年度	0	5	6	14	13	46	84	58.6歳
R3年度	0	7	4	15	13	50	89	63歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
19	R1年度	260	3,970	15.3	80.4%
	R2年度	263	3,381	12.9	67.7%
	R3年度	265	3,870	14.7	77.4%

オ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
音楽療法講師	17回	1名	17名
太極拳講師	18回	1名	18名
ヨガ講師	6回	1名	6名
ピアフラワー講師	9回	1名	9名
押し花講師	9回	1名	9名
点字	22回	1名	22名
習字	0回	0名	0名
パソコン	240回	4名	302名
活動支援	216回	6名	244名
イベント支援	3回	7名	11名
合計	540回	23名	638名

4 放課後等デイサービス 『わくわくキッズ』

- ・重度障害児の受け入れにも柔軟に対応、子ども達が笑顔となる活動に積極的に取り組んできたが、コロナ関連での利用自粛や事業の臨時休業もあり利用稼働率は81%の結果となった。
- ・保護者への連絡や広報のデジタル化への移行に向けて情報管理や導入機器の検討を行い、次年度より実施予定となった。
- ・月例会議では研修報告会の実施など利用者支援の向上への取り組みを実施した。コロナ禍での活動制限のある中で子どもたちの笑顔が増えるような季節行事や企画を開催した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	4	6	31	10
R2年度	10	10	31	
R3年度	5	12	24	

(R3年度退所者) : 卒業生3名(作業所1名、生活介護2名)・入所施設1名・転校1名・他のデイサービスへ移行2名・長期間利用なし5名

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
R1年度	0	8	29	2	0	31(8)
R2年度	0	6	30	1	0	31(6)
R3年度	0	5	24	0	0	24(5)

() 内は重複障害再掲

ウ 利用児童の学校別の人数

特別支援学校			保育園	小学校	中学校	専門 学校	その他	合計
小学部	中学部	高等部						
5	1	4	2	10	2	0	0	24

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	R1年度	248	2,133	8.6	86.0%
	R2年度	251	2,041	8.1	81.3%
	R3年度	251	2040	8.1	81.3%

オ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
音楽療法講師	24回	2名	48名
キッドビクス講師	24回	1名	24名
計	48回	3名	72名

5 放課後等デイサービス 『わくわくステップ』

- ・送迎車両を追加して送迎範囲を拡大できたことで契約利用者の増加につなげることができた。契約者は増加するもコロナの影響による利用自粛や臨時休業の影響により、利用稼働率は75%の結果となった。
- ・オンライン支援やパソコン訓練のグループ活動が利用者に定着し、今後も個別の

ニーズに応じた支援が提供できる体制を整えることができた。

- ・広報活動としては、ウェブサイトの更新を継続し常に新しいプログラムや行事開催の情報提供に努めた。
- ・年間計画に基づく研修への参加、加算対象となる研修受講、また法人内事業所との勉強会や内部研修の開催など利用者支援につながる取り組みを行った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1 年度	2	3	20	10
R2 年度	6	8	18	
R3 年度	6	6	18	
(R3 年度退所者)：高校卒業 2 名、ご家族の意向 4 名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
R1 年度	0	2	17	1	0	20
R2 年度	0	1	18	0	0	18(1)
R3 年度	0	1	17	1	0	18(1)

() 内は重複障害再掲

ウ 利用者の学校別の人数

特別支援学校		小学校	中学校	専門学校	その他	合計
中学部	高等部					
1	10	5	1	0	1	18

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	R1 年度	252	1,769	7.0	70.1%
	R2 年度	252	1,943	7.7	77.1%
	R3 年度	252	1,897	7.5	75.0%

オ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
音楽療法講師	12 回	1 名	12 名
計	12 回	1 名	12 名

6 基幹相談支援センター 『港区障害者基幹相談支援センター』

- ・相談事業と地域活動支援事業の設備改修、移転を含めた検討を定期的に行い、次年度以降の移転に向けた準備を進めている。環境面では相談事業所の隣接物件を契約し、手狭であった相談・会議スペースを改善することができた。
- ・コロナの影響で地域に向けた啓発活動を活発にはできなかったが、高校生を対象に小さな単位での研修会を開催し、当事者講師の活躍の場も作ることができた。自立支援協議会や関係機関との会議や研修はオンラインで行うことができた。
- ・人材育成を目的として、各相談員の経験年数に合わせた課題やビジョンを一覧にした育成ビジョンシートを活用して相談員個々の目標設定を行った。
- ・防災対策として、地域の通所施設や相談員と協力して、ヘルプカードの利用促進を行いながら防災意識の向上を目指した活動を行った。

ア 相談実績件数

	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
R1 年度	1,028	2,818	56	3,902
R2 年度	1,086	4,041	26	5,153
R3 年度	1,234	3,728	42	5,004

※（ ）内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲

※外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は10分以上の相談をカウント。

Ⅶ 情報文化センター 拠点

視覚障害者情報提供施設 『情報文化センター』

令和3年2月より、愛知県眼科医会広報誌に毎月「ロービジョンサポートラボ」と題し、コラムの枠を提供していただいた。名古屋市総合リハビリテーションセンターと協同して連載を進め、当法人・当施設としては、入所施設・図書館利用・日常生活用具も含めた便利グッズ・ICT機器関連などの紹介を行った。医師へのアンケート結果においても好評ということで、次年度も継続することとなる。

10月の衆議院議員総選挙関連作業、点字版・音声版の製作について、担当部署を超えボランティアを含めたセンター全体により、また、法人他拠点の職員の協力も得られ、無事に利用者へ届けることができた。この選挙と7月から毎月広報なごや区版（点字版）の受託などにより、点字出版事業部は前年度比約170%の売り上げ増となった。

令和元年6月、通称「読書バリアフリー法」が成立・施行され、名古屋市の委託事業として当事者団体・公共図書館・名古屋市との読書環境整備連絡会の発足と主管運営、またテキストデータ化ボランティア養成講習などを開催した。次年度へ向け、他機関と連携を深め、利用者ニーズを確認しながら新事業を進める。

これらの活動により、医療機関、関連施設や当事者団体からの相談や紹介、また、初めて来館される方が増えた。親しみやすく丁寧な対応ができるように、さらなる職員のスキルアップを進め、継続して施設を利用いただけるように進める。

<拠点重点項目>

(1) 事業の活性化

- ・視覚障害者情報提供施設として連絡会を通じ、視覚障害の有無に関わらず、文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向けて、読書環境の状況確認をおこなった。また、読書会では、視覚障害者の方やその周辺の福祉環境について理解いただくことができたことから、読書会開催の意義を果たせた。
- ・2年ぶりの用具展開催、たこ通信やウェブサイトなどでの情報発信の強化などにより、売上額は前年度比105.5%となった。生活支援事業は感染対策を行いつつ、予定の8割ほどの開催となった。
- ・点字プリンタ出力・製本作業、各種読み合わせなどに多くのボランティアの協力を仰ぎ、滞りなく業務を進めることができた。

(2) 感染予防対策の継続実施と事業継続計画（BCP）の作成

- ・図書製作は、前年度より進めている製作時の来館頻度を減らすための「郵送での原稿やり取り」や「デジタル技術を活かしての校正データのやり取り」「オンラインによる会議や講習」などを推し進めている。ただ、コミュニケーション不足による問題が出ることもあり、その都度対処している。

- ・防災面での BCP は、法人主導の BCP 策定と並行して今までの防災マニュアルを、細分化して機能するよう進めた。
- ・用具展では感染対策として、1 時間 30 名までと人数制限を行い 2 年ぶりに開催。用具説明会や IT 講習などではオンラインの活用も行い、対面とオンラインの両方を活用して感染対策にあたっている。
- ・来館者の記録や体調確認、マスク着用・消毒の協力など、年間を通して実施した。
- ・広報なごや区民版（点字）について、代替プランの構築には至っていないが、月 1 回発行時の電話・メール等によるやり取りで信頼関係を築くことができた。

① 職員・ボランティア人数

	職員		ボランティア			
	職員総数	うち 視覚障害者	音訳関係	点訳関係	その他	合計
R1 年度	23	7	122	92	53	267
R2 年度	24	8	131	98	49	279
R3 年度	23	8	133	93	51	277

② 寄附件数

	個人	団体	～10 万円	10 万円～
R1 年度	34	2	36	0
R2 年度	33	3	35	1
R3 年度	34	5	37	2

1 図書館事業部

- (1) デジタル技術を活かした蔵書製作、来館せずとも点訳作業が行え、作業効率化や経費削減も図れる新たな活動方法の確立
 - ・ BESX 講習を 3 回開催して、のべ 43 名が参加。有効に活用できるまでには、まだ時間が必要のため、今後も講習を開催して仕組みを構築する。
- (2) テキストデータ化ボランティア養成講習を実施し情報提供の充実
 - ・ テキストデータ養成講習（全 5 回）を実施。10 名が受講。内 7 名がテキストデイジー応用講習に参加。また、同時にテキスト校正ボランティアの養成に 12 名が参加。
- (3) 新たな貸し出し方法を実施、多様なニーズ対応
 - ・ 事例調査をおこなったが、現状サービスとして対応している施設は少なく、当施設と同じように個別に提供している。今後、対応方法などをさらに検討する。
- (4) 愛盲報恩会視覚障害者文庫の整備と情報提供
 - ・ 書籍の整理とデータの 입력は終了し目録は完成。正式運用までは至らず。今後

は、広報手段や細かい運用方法などを固め、早期開始できるよう進める。

(5) 公共図書館等と連絡会を設置、読書環境の整備（名古屋市新委託事業）

- ・7月に第1回（対面）、2月に第2回（オンライン）を開催。関係団体より状況や今後の方向性について確認をした。単なる意見共有の場ではなく、課題である広報（発信）を中心に具体的に計画書を作成して進める。

(6) 読書会を継続実施、読書を通じた共生社会の実現

- ・2回開催。コロナ禍の中、9月開催は11月に延期をして14名の参加、3月は11名の参加となった。企画意図の、本を題材にして晴眼者と視覚障害者と出会う場所として、さらに視覚障害理解を深める場として有意義な開催となった。

(7) 部署内外の連携強化、ボランティアの活用

- ・貸し出し部門が従来の2階から1階へ移動し、図書の移動や利用者対応に効果があった。また、製作と出版が連携をスムーズにおこない効率を上げることができている。
- ・ボランティアの活用に関しては、来館頻度が少なくなり支障もあったが、効率化の仕組みづくりのきっかけとなった。

① 蔵書数

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		CD図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
R1年度	10,168	39,454	5,315	32,365	8,897	8,901
R2年度	10,236	39,980	—	—	9,321	9,325
R3年度	10,325	40,714	—	—	9,764	9,769

※令和2年6月より自館テープ図書の製作・貸出しを停止。

②新規製作図書

ア 蔵書

	点字図書		CD図書
	タイトル数（内リクエスト）	冊数	タイトル数（内リクエスト）
R1年度	320（16）	1,126	153（66）
R2年度	296（9）	1,114	162（52）
R3年度	306（13）	1,201	158（59）

イ 雑誌

	点字		録音 (CD)	
	月刊	隔月	月刊	隔月
R1 年度	2 種類 24 タイトル	1 種類 6 タイトル	6 種類 72 タイトル	4 種類 24 タイトル
R2 年度	2 種類 22 タイトル	1 種類 4 タイトル	6 種類 65 タイトル	4 種類 22 タイトル
R3 年度	2 種類 24 タイトル	1 種類 6 タイトル	6 種類 72 タイトル	4 種類 24 タイトル

ウ プライベート

	点字図書		CD図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
R1 年度	23	31	4
R2 年度	19	22	4
R3 年度	11	10	5

エ サピエデータアップ状況

	点字データ		デージーデータ	
	アップタイトル数	アップ巻数	アップタイトル数	アップ時間
R1 年度	332	1,138	225	1,835 時間 42 分
R2 年度	306	1,124	230	1,839 時間 31 分
R3 年度	290	1,140	228	1,710 時間 02 分

③ ボランティア養成

ア 点訳ボランティア

	点訳者養成 (隔年)	フォローアップ ^o 講習 (隔年)	英語点訳
R1 年度	1 講座 19 回 延べ 246 名	—	1 講座 17 回 延べ 85 名
R2 年度	—	※	1 講座 14 回 延べ 70 名
R3 年度	1 講座 23 回 延べ 235 名	—	1 講座 13 回 延べ 65 名

※R2 年 4～11 月受講終了者 12 名に対し実施。新型コロナウイルス感染拡大により断続的な講習を休止し、通信講習に切り替えたため、正確な数値算出はできず。

イ 音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ講習	校正者 養成講習 (フォローアップ)	デジター編集者 養成講習
R1年度	22回 252名	—	1回 4名	—
R2年度	※	5回 46名	※	—
R3年度	20回 156名	※	1回 2名	—

※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度分の養成講習およびフォローアップはすべて中止。

	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレストーク操作講習
R1年度	4回 140名	29回 662名	5回 33名
R2年度	—	21回 255名	3回 17名
R3年度	—	17回 181名	1回 5名

④貸出

ア 登録者数

	個人 (内・サピエ)	団体
R1年度	A会員 2,279 (627) / B会員 44 (19) 合計 2,323 (646)	524
R2年度	A会員 2,307 (659) / B会員 44 (20) 合計 2,351 (679)	527
R3年度	A会員 2,325 (676) / B会員 48 (24) 合計 2,373 (700)	529

イ 利用者数

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
R1年度	212	3,097	94	542	673	26,274
R2年度	207	3,085	60	325	632	24,741
R3年度	190	3,126	25	4※	616	23,873

※令和2年6月より録音テープ図書の貸出しは他館製作のもののみとしている。

ウ みちしお購読者数

	点字	デジター	墨字	メール 分割	メール 添付	総数	実数
R1年度	308	389	423	280	78	1,478	1,349
R2年度	297	374	423	274	80	1,448	1,324
R3年度	289	346	415	268	82	1,400	1,281

エ 資料貸出数

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
R1年度	3,097	7,293	542	2,710	26,274	26,376
R2年度	3,085	7,405	325	1,739	24,741	24,780
R3年度	3,126	7,967	25	16	23,873	23,913

オ サピエからのオンラインリクエスト数（サピエ上での図書注文システム）

	リクエスト 送信数（施設）	リクエスト 送信数（個人）	リクエスト送信数 （施設・個人合計）	リクエスト受信数 （施設・個人合計）
R1年度	1,037	1,296	2,333	5,186
R2年度	1,074	685	1,759	5,176
R3年度	1,002	512	1,514	4,779

カ コンテンツ（点字データ）利用状況集計

	ダウン タイトル数	ダウン 巻数	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
R1年度	14,402	55,271	183	22,841
R2年度	32,082	124,108	189	44,165
R3年度	18,791	68,706	180	28,420

キ コンテンツ（音声デイジー）利用状況集計

	再生 タイトル数	再生 時間	再生 実利用者	再生 延べ 利用者	ダウン タイトル数	ダウン 時間	ダウン 実利用者	ダウン 延べ 利用者
R1年度	10,263	7,287時間 37分	164	24,972	28,067	218,048時間 3分	424	165,077
R2年度	10,745	7,241時間 32分	167	26,923	30,984	240,958時間 1分	442	189,564
R3年度	11,552	8,417時間 3分	157	29,580	32,183	250,656時間 26分	433	202,362

ク サピエのデイジーオンライン（サピエ上の図書データ提供サービス）

	A会員		B会員		合計	
	実 利用者数	登録 タイトル数	実 利用者数	登録 タイトル数	実 利用者数	登録 タイトル数
R1年度	0	0	0	0	0	0
R2年度	1	4	0	0	1	4
R3年度	3	28	0	0	3	28

⑤情報提供数

	新聞 点訳	バリアフリー 映画会	メールマガジン たこ通信	メールマガジン ほっとタウンナビ
R1 年度	28 名	6 回 243 名	339 件	179 名
R2 年度	30 名	2 回 49 名	276 件	184 名
R3 年度	28 名	5 回 88 名	件	173 名

	点字出力 サービス	対面読書サ ービス	代筆・墨訳サ ービス	利用者向け プレクストーク 個人講習	利用者向け プレクストーク 操作体験会
R1 年度	46,596 枚	7 件	22 件	1 回 1 名(1 名)	—
R2 年度	32,986 枚	3 件	20 件	1 回 1 名(1 名)	—
R3 年度	30,188 枚	1 件	12 件	2 回 2 名(2 名)	—

() 内実人数

2 サービス事業部

(1) 社会参加支援

- ・中失点字学習会は2講座34回開催。新規4名、修了5名。外出訓練では、11月に東山動植物園へ行き、バリアフリー設備について知るとともに、地域の公共施設利用における障害者への配慮について考えた。
- ・生け花教室5回、料理教室9回、アレンジフラワー教室9回と予定の8割ほどの開催となった。メイク・パーソナルカラー講座は9回開催。新しい参加者が増え、QOLの向上につながっている。

(2) ピア相談

- ・眼科医療のLVケアが強化され、初来館者が増加。ピア相談員自身の生活の紹介と障害受容への共感が中途視覚障害者の自立に向けて有効だと感じられる。医療機関への訪問型支援は確実に当館を初めとする福祉サービスにつなげることができている。

①MAJ講習回数

	回数	延べ人数
R1 年度	36 回	158 名
R2 年度	26 回	55 名
R3 年度	30 回	76 名

②相談支援件数

	相談支援		合 計
	継続支援(件)	新規支援 (件)	
R1 年度	41	132	173 件 (実人数 131 名)
R2 年度	61	130	191 (実人数 138 名)
R3 年度	36	173	209 件 (実人数 175 名)

③相談内容

	生活	マニ ケーション	就労	学業	ピアカン	家族	ロー ビジョン	移動	その他	計 (件)
R1 年度	80	10	10	0	54	7	1	39	16	217
R2 年度	87	5	22	0	37	4	6	60	17	238
R3 年度	81	12	22	2	29	17	5	69	28	265

※相談内容によって複数の項目でカウント

④中途失明者緊急生活訓練状況

	点字触読指導※				料理・お菓子教室	
	回数	人数	うち新規	自主学习	講座数	延べ人数
R1 年度	41 回	20 名	4 名	13 名	8 回	37 名
R2 年度	30 回	22 名	4 名	19 名	4 回	16 名
R3 年度	34 回	20 名	4 名	14 名	9 回	42 名

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、R2 年 6 月より 2 グループに分けて開催

⑤講師派遣・見学件数

	講師派遣等	見学対応		
		小中高等学校	その他施設	計
R1 年度	26	7	14	21 件 255 名
R2 年度	24	1	12	13 件 56 名
R3 年度	16	2	14	16 件 102 名

※講師派遣等について R2 年度までは、依頼数、日数が混在していたが、令和 3 年度からは、依頼数にて算出することとした。

(3) 用具斡旋販売事業

- ・視覚障害者用具価格表（墨字版・活字版・音声版）を 10 月に発行。ウェブサイトの商品カタログは変更時に随時更新し、最新の商品情報を発信している。
- ・「サービス事業部説明会」をオンラインにて 10 月 21 日に開催し、21 名が参加。事前に用具説明の動画を準備するなど、初めての試みではあったが試行錯誤しながらも当日はスムーズに進めることができた。
- ・関係機関への訪問は下半期 6 回実施。三重県視覚障害者協会は、2 年ぶりの訪問となり、たくさんの方に来場いただけた。

①用具斡旋販売事業収入

	R1年度	R2年度	R3年度
収入（円）	52,877,297	48,498,645	51,590,013

②読書支援機器販売台数

	プレストアーク (録音・再生) PTR2・3	プレストアーク (再生専用) PTN2・3	拡大読書器	小型プレストアーク PTP1・リンクポケット
R1年度	71	26	76	52
R2年度	49	33	122	42
R3年度	47	23	122	41

③歩行・情報支援機器販売台数

	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
R1年度	473	PC-Talker(46)	ネットリーダー(38)	MyMail V(29)
R2年度	343	PC-Talker(37)	MyMail V(15)	MyBook V(8)
R3年度	517	PC-Talker(34)	MyMail(13)	MyBook V(10)

(4) IT訓練支援

- ・個人講習は177件、内ZOOMでの遠隔講習は51件。相談件数は889件。情報発信として、みちしおにIT情報を6件掲載、MAJでの講座やほっとタウンナビでの記事を月1回程度担当。
- ・雇用支援として、名古屋東ジョブトレーニングセンター利用者訓練を2名、職業能力開発校委託職業訓練を2名、職業センター雇用管理サポートを1名実施。
- ・外部講師として、日本福祉大学の講義（視覚障害者支援論）を15回、名古屋市交通局職員への研修を4回実施。

①IT訓練支援の内訳

	相談（延べ人数）	個人指導（延べ人数）	集団指導（延べ人数）
R1年度	1183	308	178
R2年度	1169	90	2
R3年度	889	177	508

3 点字出版事業部

(1) 点字・音声製作物の体制づくり

- ・当年度中に5名の新規ボランティア協力者を確保（読み合わせ3名、用紙カット・製本作業2名）し、業務の負担軽減が図られた。
- ・下期を中心に週1回、継続的に校正課題に取り組み、触読者の技術レベル向上に

努めた。

(2) 利用者ニーズに合ったサービスの模索・提供

- ・触読校正者職員は増員できず、現状維持の体制を継続している。
- ・区版ボランティア育成については、体制が整わず、講習開催に向けた動きには至らなかった。
- ・『らしんばん』は、職員が幅広く携わって、年4回、計画に基づいて充実した内容で発行することができた。

(3) 収益増への取り組み

- ・価格単価の見直しを順次行い、改定を進めることができた。
- ・新規点字図書1タイトルを発行（校正の一部と印刷発送は次年度にずれ込んだ）するとともに、各方面に宣伝をかけ、販売促進を図った（年度末時点16件受注）。

①点字出版事業収入

	収入（円）	大口受注（定期受注は除くが、新規開始するものは含む）
R1年度	68,061,173	統一地方選挙、参議院選挙、中部電力名称変更対応、改元による名鉄運賃表監修作業
R2年度	44,193,449	なし
R3年度	74,998,870	衆議院選挙、NTT点字電話帳作業、7月より広報なごや点字版区版の定期製作開始

②点字出版物製作

ア オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	点字企画商品 (触図カード、年賀状点 図シール、一筆箋、ポチ袋)
R1年度	950冊	5タイトル	10タイトル	2,396枚
R2年度	891冊	16タイトル	0タイトル	1,247枚
R3年度	856冊	20タイトル	10タイトル	1,489枚

イ 受注製作物（定期刊行物・点字教科書）

	名古屋市 (広報なごや・ 市会だより)	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
R1年度	2,212部	665部	1,095部	—
R2年度	2,208部	660部	896部	4部
R3年度	4,032部	656部	720部	—

※R3年度より広報なごや区版の製作を開始。

ウ その他受注作製物

	名古屋市 はじめ 市町村 (行政資料等)	施設・団体・ 一般企業	選挙情報 (名簿・公報 ・投票用紙)	公共料金明細 (電気・ガス・水 道)	点字名刺
R1 年度	29 件	88 件	60 件	8,478 枚	160 名
R2 年度	17 件	87 件	32 件	5,491 枚	184 名
R3 年度	34,849 件	242,225 件	58 件	8,220 枚	118 名

※「名古屋市はじめ市町村」、「施設・団体・一般企業」について、R2 年度までは依頼数であったが、R3 年度より全ての作業数を表記することとした。

③音声版受注作製物（デ→デイジー、音→音楽CD版、カ→カセットテープ）

	名古屋市 (広報なごや・市会 だより)	その他 名古屋市	施設・団体・ 一般企業	選挙公報
R1 年度	デ 4,476 枚 音 217 枚 カ 613 本	デ 99 枚 音 112 枚 カ 1,242 枚	—	—
R2 年度	デ 4,506 枚 音 354 枚 カ 540 本	デ 124 枚 音 104 枚 カ 74 本	デ 311 枚	デ 353 枚 音 349 枚 カ 524 本
R3 年度	デ 4,604 枚 音 488 枚	デ 2,183 枚	デ 134 枚 音 10 枚	デ 2,356 枚 音 49 枚 カ 988 本

※R2 年度で広報なごや（カセットテープ）の製作が終了。

※R3 年度より「その他 名古屋市」に「生活情報誌らしんばん」を追加。

④点字技術支援（点字サイン・UV 加工等）

	点字サイン製作・監修	UV 点字加工
R1 年度	7,466 枚	147 点
R2 年度	4,775 枚	255 点
R3 年度	2,289 枚	782 点

※R2 年度より「点字案内板・プレート」と「鉄道駅構内触知案内板」と「監修」を「サイン製作・監修」に集約。

※R3 年度より「UV 点字加工」の算出方法を依頼数から作業数に変更した。

VIII 瀬古マザー園拠点

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
デイサービスセンター	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
〃	『矢田マザー園デイサービスセンター』
短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園指定短期入所生活介護事業所』
居宅介護支援事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

個別ケアの推進については、各部署において着実に前進した。

補助金の活用や前年度末に行った積立金を使って、計画に沿っていくつもの改修工事を実施した。施設整備の継続性担保と利用者QOLの向上につながった。

前年度に続き感染対策に注力した年となったが、年度末に瀬古デイにてコロナ陽性者が立て続けに発生し、3度の休業を余儀なくされた。発生自体は防ぎきれないが、ダメージを最小限とするための対策が求められた。

<拠点重点項目>

(1) 事業の活性化

- ・利用稼働率は、特養、ショート、居宅介護支援が目標達成、瀬古デイと矢田デイが目標未達となった。事業ごとの収支（サービス活動増減差額）は特養、ショート、盲養護、居宅介護支援が黒字、両デイサービスと平成会館が赤字となった。拠点全体では、大きな工事が多い1年だったが、黒字を確保した。
- ・両デイサービスは、コロナの影響を大きく受け利用稼働率が大きく変動した。特に瀬古デイでは年明けから立て続けに利用者に陽性者が発生し、3度の休業を余儀なくされ、利用稼働率低下、収支悪化の大きな要因となった。フロア拡張の計画も検討を進めたが、実施は次年度に持ち越した。

(2) 感染症対策の継続実施と事業継続計画（BCP）の作成

- ・コロナ感染症対策は、基本的な対策を徹底しつつ、市井の感染状況を踏まえて利用者のQOL維持と感染対策のバランスを大切に、柔軟かつメリハリをつけた取り組みを1年を通して行った。特に両デイサービスでは、パーティションの設置やこまめな消毒、利用前の検温等の対策を実施してきたが、瀬古デイの3度の休業を受け、飛沫防止シートの増設や利用者のマスク着用徹底など、利用者に陽性者が発生しても影響を最小限に止める対策を強化した。
- ・BCPについては、法人主導による一体的取り組みの中で、災害対策版、感染症対策版それぞれについて、第一段階のものが完成した。今後、更に実用性を高める。

(3) その他

- ・予定していた特養エレベーターの改修工事を実施した。一定期間、利用者がフロアから出られない環境となったが、拠点全体でサポートし、利用者にも協力をいただき実施できた。
- ・拠点全体のデジタル化の一歩として、全館の Wi-Fi 環境整備の工事を実施した。

1 特別養護老人ホーム 『瀬古第一マザー園』

- ・当年度から新たな取り組みとして家族面談を開始し、10件実施した。利用者の人生の足跡や家族の思い出のエピソードなどを聞かせていただき、残された人生の過ごし方や願いを叶える支援についてご家族と一緒に考える機会となった。
- ・定例のケアカンファレンス等で新様式のカードックスを活用した。利用者個々のニーズや支援内容が多職種間でより明確に共有され、個別ケアを具体的に展開できるようになった。
- ・9月に3階デイルームの拡張工事を行った。スペースが広くなり生活の場に適した過ごしやすい環境を整備することができた。
- ・看とりケア推進委員会を中心に「おもいで あしあと」シート（エンディングシート）を作成するとともに、重度化した利用者の安楽な姿勢をサポートするクッションを整備し、看とりケアの質の向上に努めた。
- ・入院先の医療機関と連絡を取り合い、入院日数の適正化に取り組んだ。退所から新規入所までの空床日数の短縮にも努め、利用稼働率 96.0%となり目標を達成した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1 年度	10	10	59	60
R2 年度	9	11	57	
R3 年度	9	8	58	
(R3 年度退所者) : 死亡 6 名 (うち看とり 2 名)、他施設 : 2 名				

イ 要介護度状況 (年度末時点)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均要介護度
R1 年度	1	3	21	24	10	59	3.6
R2 年度	0	2	20	24	11	57	3.8
R3 年度	0	1	15	29	13	58	3.9

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
60	R1年度	366	20,899	57.1	95.2%
	R2年度	365	20,920	57.3	95.5%
	R3年度	365	21,017	57.6	96.0%

2 盲養護老人ホーム 『瀬古第二マザー園』

- ・入所者のフレイル予防を目的に定期的なコグニサイズ運動や利用者個々の希望に添ったリハビリや活動を提案、実施した。生活の刺激にもなり満足の声も多く聞かれた。健康器具の整備は、調査、一部購入もしたが、活用に課題が残った。
- ・利用者のニーズや課題に基づきサービス調整を行い、徐々に外部サービスの利用者が増えている。新たなクラブ活動も開始した。
- ・広報活動は、コロナ感染状況や人員不足によりほとんど取り組めなかった。眼科医会の会報に施設紹介を掲載した。
- ・年間を通して同行援護従業者研修や救急研修等に職員を派遣し、業務に必要なスキル向上、習得を図った。
- ・ダイルームのテレビ更新、居室の扉更新（2室）、共有部分の塗装工事等を実施し、生活環境整備に努めた。
- ・地元小学校への福祉教育を2回実施した。視覚障害者を知ってもらう機会になると同時に、入所者の大きなやりがいとなった。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R1年度	4	4	50	50
R2年度	6	6	50	
R3年度	5	5	50	
(R3年度退所者)：死亡3名、特別養護老人ホーム1名、在宅復帰1名				

イ 施設利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者	50	50	50	49	50	50	50	50	50	50	49	50	—
入所	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	5
退所	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	5

ウ 視覚障害等級別状況

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	計
R1年度	32	16	2	0	0	0	0	50
R2年度	34	14	2	0	0	0	0	50
R3年度	35	13	2	0	0	0	0	50

エ 要介護度状況（年度末時点）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R1年度	31	1	8	3	4	3	0	0	50
R2年度	33	0	8	4	4	0	0	1	50
R3年度	32	1	4	3	7	1	2	0	50

3 短期入所生活介護事業 『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』

- ・毎月、カンファレンスを開催し、利用者やご家族のニーズに応えることができるよう多職種で施設サービス計画書の見直しを行い、ケアの質の向上を図った。
- ・下半期は、コロナ禍による受け入れ制限や長期利用限定対応等により苦戦したが、上半期が緊急ショートを受け入れや空床利用等で100%を超えるなど、利用稼働率が高かったこともあり、年間利用稼働率は92.6%と目標を達成した。
- ・感染予防の観点から事業所訪問ができない状況が続いているが、電話やファックスを中心とした広報活動を続けることで、新規登録者数が増えてきている。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
R1年度	8	7	9	4
R2年度	4	3	6	
R3年度	7	9	7	

※3月に利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（3月実利用者）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R1年度	0	0	1	0	3	4	1	9
R2年度	0	0	0	1	3	2	0	6
R3年度	0	0	0	1	3	2	1	7

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
4	R1年度	366	1,373	3.8	93.8%
	R2年度	365	1,356	3.7	92.9%
	R3年度	365	1,352	3.7	92.6%

4 高齢者デイサービス

(1) 『瀬古マザー園デイサービスセンター』

- ・7月に理学療法士を採用し、個別の機能訓練を開始した。看護師や正職員と利用者個別のリハビリについて情報共有、打ち合わせを行い、共通認識をもって取り組んでいる。
- ・リハビリスペース確保のための工事に向け設計を開始し打ち合わせを進めたが、雨漏りの影響で工事が実施できず、次年度へ持ち越しとなった。リハビリ機器の検討のみ先行して実施した。
- ・理学療法士を中心に個別機能訓練加算算定のための書類整備と業務プロセスの構築を行い、徐々に加算算定者を増やしたが、算定者の入院等で伸び悩み、算定率21%と目標には届かなかった。
- ・利用稼働率は、12月単月で70%を超えたが、上半期の低迷と年度末のコロナ陽性者発生に伴う休業、利用自粛や契約解除があり、前年度比△0.1ポイントの60.5%と目標には届かなかった。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
R1年度	20	21	53	30
R2年度	22	21	54	
R3年度	22	19	52	

※3月に利用実績のない登録者がある場合、実利用者と一致しない場合がある。

イ 要介護度状況 (3月実利用者)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R1年度	2	11	11	12	11	4	2	53
R2年度	1	10	13	16	8	4	2	54
R3年度	2	8	14	13	5	8	2	52

ウ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
30	R1年度	308	5,851	19.0	63.3%
	R2年度	309	5,614	18.2	60.6%
	R3年度	293	5,319	18.2	60.5%

(2) 『矢田マザー園デイサービスセンター』

- ・ここ数年、黒字化を目指し取り組んできたが、大規模な修繕（外壁塗装工事）経費を含めて90万円弱の赤字となった。
- ・令和元年度から取り組んできた選択レクをベースとして、認知症予防に向けて学校形式の選択レクに取り組み、一定の効果は感じられたが、準備の労力が大きく、人員不足も重なり、以前の脳トレ的な取り組みに戻した。認知機能の測定にまでは取り組めていない。
- ・個別機能訓練加算の書類や業務プロセスを請求ソフトの機能も活用して整備した。効果の見える化に向けてモニタリング項目を見直したり、担当者と看護師で定期的な打ち合わせを行うなど、リハ機能の強化に取り組んだ。
- ・和室の改修に向け、和室にあった男性更衣室を事務所へ移設した。和室改修は想定より遅れたが、図面も完成し業者には発注済みで、次年度早々に実施予定である。
- ・10月には単月で約77%の利用稼働率となったが、1年を通してコロナの影響等で利用稼働率が大きく動き、特に年が明けてから利用自粛や体調不良による利用中止、新規契約の減少で利用稼働率が低下し、年平均69.6%と目標には届かなかった。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
R1年度	32	16	51	30
R2年度	21	28	51	
R3年度	21	20	52	

※3月に利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（3月実利用者）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	共生型	計
R1年度	2	3	9	22	11	1	1	2	51
R2年度	3	3	9	24	7	2	2	1	51
R3年度	4	4	9	23	7	3	0	2	52

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
30	R1年度	309	5,257	17.0	56.7%
	R2年度	303	6,333	20.9	69.7%
	R3年度	309	6,450	20.9	69.6%

5 居宅介護支援事業 『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業』

- ・ケアマネジャー3名のうち、2名が主任介護支援専門員の研修を受講し、「高齢者いきいき相談室」の登録をすることができた。10月からスタートして3件の相談を受けている。年間利用稼働率も目標の90%を達成した。
- ・ケアマネジャー同士の連携強化と特定事業所加算の取得を意識して、毎週1回、居宅ミーティングを開催し、困難事例の情報共有と各種情報交換の場を設けた。
- ・瀬古マザー園拠点のデイサービス、ショートステイ等への紹介率には大きな変動はなく65%前後で推移した。3月には70%まで紹介率を上げることができた。
- ・研修に積極的に参加し、ケアプランの充実に努めた。

ア 利用状況

	総合事業	要支援	要介護	合計(件)	利用稼働率
R1年度	149	262	802	1,213	98.4%
R2年度	192	296	913	1,401	81.0%
R3年度	251	384	1,092	1,727	90.3%

利用稼働率 = (要支援数 × 1/2 + 要介護数) ÷ 12ヶ月 ÷ ケアマネのケース上限 (上限はケアマネ1名あたり39.5件)

6 ふれあいセンター 『瀬古平成会館』

- ・新型コロナウイルスの感染拡大による休館や、利用団体の自粛の影響もあり、前年度に引き続き、利用者数の減少傾向が続いた。
- ・外部向け利用チラシを作成し、掲示板に掲示した。館内に気軽に取っていただけるようチラシを置くなどして地域への周知を実施した。

ア 施設利用状況

	延べ利用団体数	延べ利用者数	実利用団体数
R1年度	487	8,642	30
R2年度	385	3,753	16
R3年度	316	3,614	24

7 事務部門・給食部門

(1) 事務部門

- ・瀬古マザー園ウェブサイトが法人ウェブサイトと統合し、リニューアルした。毎月の行事等の掲載を開始した。
- ・特養エレベーター更新工事、矢田マザー園デイサービスセンターの外壁塗装工事等を行った。また、中長期の修繕計画も作成した。
- ・屋上防水・外壁塗装工事の大規模改修を財団法人 JKA に補助金申請し、採択された。令和 5 年度に事業を実施する。

(2) 給食部門

- ・副菜の食事形態改善に取り組み、刻み食から軟菜食へ移行を行った。喫食率の向上と誤嚥リスクの低下につながった。